顧問 大隈重信
會長 島田三郎
同 森村市左衛門
副會長 安部磯雄

4―47

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）
（大正六年二月一日納本）（毎月一回一日發行）

廓清

第七卷第二號

□廓清時言……伊藤江南
□帝國の世界的地位……前宗教局長 島田三郎
□法律に對する謬想……早大教授 安部磯雄
□人種と國民衞生……醫學博士 永井潜
□立憲思想の養成……早大教授 內ケ崎作三郎
□活動寫眞の研究（三）……ドクトル 三田谷啓
□婦人の貞操に就て……[illegible] 塚本はま子
□殉教者か鼠小僧か……[illegible] 山室軍平
□廓清運動の近狀……廓清會主事 伊藤秀吉
□遊廓物語（九）……[illegible] 伊藤富士雄
□私娼問題を論ず……菅原生
□短篇小說「禍」……田村俊造
□廓淸春秋……元大連商業學校長 河合北洲

東京 廓清會本部發行

「治療」は過去の聲なり。
「豫防」は現在の聲なり。

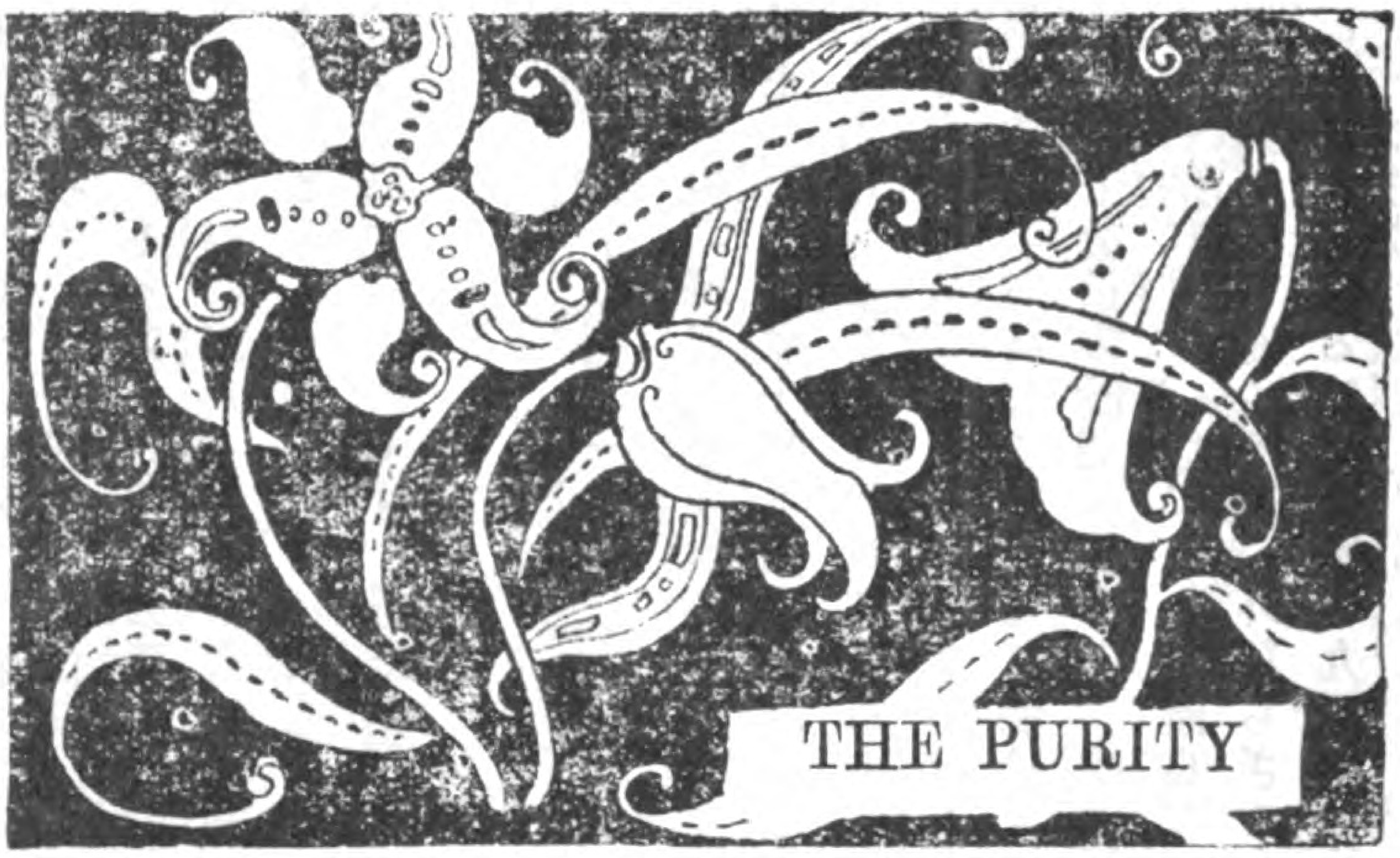
ライオン齒磨は

齒牙口腔の疾患を豫防する
科學的合理的齒磨なり。

就中
ライオン齒磨の煉製は旅行者の便利!
ライオン齒磨の水製は衛生家の福音!

東京本所區外手町
ライオン齒磨
ライオン石鹼
本舖 小林富次郎
支店 大阪東區博勞町二丁目
名古屋市桑名町四丁目

廓清
大正六年二月
第七巻第二號



廓清時言

帝國議會遂に解散せらる

第三十八議會は野黨の不信任案に遭ひ、解散を見る事となりぬ。解散する者非乎、解散せらるゝ者非乎、吾人之れを深く論ぜざる可しと雖も、要するに彼等は共に善政主義と責任内閣制との明確なる差別を知れりや、換言すれば幾何迄、立憲政治の何者なりやを眞に諒解せりや疑なき能はず、憲法發布せられてより既に三十四年會を重ぬる事三十八、必ずしも短しといふ可からざるに、我國民の政治思想依然として、政治商賣の徒に壟斷せられ、國民の生活を基礎とし國民の幸福を基礎とする政治の起らざるは遺憾也。惟ふに來らんとする總選擧に於ても、魑魅魍魎盛んに跳梁し、風紀爲めに紊れ、歸する處『鍬か雪駄か』といふが如き黄白の榮光を見るならむ如斯にして集り得たる日比谷原頭の頭顱幾百、議する處知るべきのみ。

希くば、吾人同志は、此の機會に風教問題を提げて立つ位の人格者を見出し、或は自ら駒を陣頭に進めて、我國の男女問題の爲めに、奮つて起ち奮つて應援せられむ事を望む。

英國婦人の感泣の時近く

最近着ロンドン電報は、今回英國に於て愈々選擧法改正委員會は婦人の投票權を認むる旨を可決し、議會通過疑ひなき形勢なりといふ。「英國の如き婦人の實力あり要求の猛烈なる國に於ては當然の事にて、吾人は其同胞姉妹の爲め、子孫將來の爲め、身命を賭して多年悲壯痛烈なる大活動をなし來れるサフラゼット諸姉の爲め、衷心より祝せざる能はず。議會通過し

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

彼等の高價なりし犧牲と熱誠の報ひらるゝに對し、彼等が感極まつて號泣すべき瞬間の光景の、吾人の眼前に躍如として彷彿するに非ずや。

あはれさるにても我國の婦人の現狀や如何。其同性を亡八づれの奴隷として顧みず、其の同性を拉し去つて男子に貞操を蹂躙せしむる制度あるも意とせず、政談演説を傍聽をなすの權利すらなくして一口に婦人小兒と云はれ、非人格的の取扱ひを受けても平然として、たゞ只管に眠らんとし、一人の起つて戰はんとする義憤の人を見ず、彼此對照して果して如何の感か沸く。

教員優遇は學生の虐待のみ

今回政府は公立學校の職員制度及其待遇に關する新規程を公布したり、改正の要點は從來屢々論せられたる教員の優遇にありて、元より未だ完璧を期す可からざるも、又進歩たるを失はず。されど吾人の立場より之を論ずれば其處に一大矛盾を見出し、畢竟學生の虐待たる奇觀なき能はざるなり。蓋し教員優遇は文字通り教員の優遇に止まり、或は優良なる教員を得んとするが目的に非ず、之によりて優良なる子弟の教養を得、教育の振興を圖らんとするに外ならざる也。故に吾人の敢て當局に問はんとするは、周圍に九個の中等學校を有する其の中央に一大遊廓を建設し、邪色は其の學生を過たしめ、淫聲は其の學生を陷れしめんとする彼の飛田遊廓に對するの責任とす。或は大道を挾んで堂々醜業を營む新宿品川の如き何が故に之を放任せんとするか、之れ教員優遇の根本趣旨に悖る事なしとする乎。

公娼制度てふ絕大なる威力を有する實物教育によりて、西すべく強て導かるゝ學生子弟は、教員優遇によりて愈東すべく教へられんとす、身首處を異にするに非ざれば適從すべからざる學生や、禍なる哉。

品川燒失遊廓善後策如何

公娼制度の一日も早く戮滅すべきものなるは吾人之を論じ盡したり。而して就中最も野蠻亂暴なる存在は新宿品川の二廓とす。新宿は中仙道への帝都の關門にして電車通りに堂々と行はれ、新宿御苑に隣し、更に明治神宮近く建設を見んとする淨地なり、品川は東海道への帝都の玄關にして、近時京濱間の來往頻繁を極め、自働車の通行上より見ても道路取擴げの急に迫まられ居る地にして、其の大道を挾んで之亦堂々醜業の公行を見る。存娼論者と雖も其位置の不可なる飛田遊廓と共に爭ふ可からざるの地とす。

然るに此地火を發して烏有に歸したるもの十二戸に及び、之が善後策に就て當局とも會見したるが、既得權先例等に拘泥して逡巡の風あるは遺憾也。吾人の見地よりすれば火災の如き機會に營業權を消滅せしむるは當然の措置にして、若し之を斷ずるの勇なしとするもせめては洲崎の如き隔離せられたる廓內に移轉せしむべきは自明の事也、若し當局情實に制せられて之を再び許すが如くんば、彼や風紀を語る可からず、また筆陣を張り壇上に見へざる可からざる也。(江南)

帝國の世界的地位と其將來

前衆議院議長
廓清會々長　島田三郎

□一躍世界の債權國

歐洲に於ける、大戰亂勃發の當初に於て、我國は其の何れに與すべきか、聊か其の間に考慮の餘地があつたといふ者がある。併し私は其時、我日本帝國はよろしく同盟國英吉利を助く可く、其の態度に逡巡の餘地はないと斷言した。即ち向背係つて國家の存亡に關する時にありても、古來我國の誇としたる信を重んじ義によりて立ち、敢て利害に關せざるの態度に出づ可きであると信じた。然るに我國に於ける或る者の如きは、獨逸は我國に對して學問上の先輩であり、お互に兄弟として相親しむべき國であるが故に、同盟側に加擔すべし且つ協商國側に立ちて獨逸を久しく敵とするは不利益であると、日英同盟の信義を忘れたらん如き議論を試むる者も往々にしてあつた。或は聯合國に加擔するとしても、當時英吉利も佛蘭西も露西亞も等しく悃憊して居る時であるから、此際暫時袖手傍觀の態度に出で有利なる條件を獲得したる後參戰すべきであると言つた人もあつた。けれども凡そ人を助けんと欲する者は其の悃憊窮乏の時にして始めて眞に力あり價値あるものである。然るに彼等國家興亡に關する一大災害に際し參戰に對する報償を要求して、額に熱灰を盛るが如きは義人のなすべき行爲ではない。我等は助く可き者ならば百難を排し、萬艱を侵し、同勞以て立つべきである。況んや信義を厚うせる同盟國の悃窮せるに於てをや。斯くの如くにして日本帝國は、義を唱へて聯合國側に加擔する事となつた。その結果として日露戰爭以來、復仇の觀念を國民に煽動し極東に戰備怠りなかりし露西亞は、帝國の誠意によりて後方を憂慮するの必要なきを認め、極東の兵備を空しうして西に送り、軍需品の補充援助は十年以來の敵愾心を氷解し遂に互に友邦善隣たるの契りを締結するに至り、英佛をして日本の信義に感謝せしめて、國價を世界に高うするに至りしのみならず、夥しき海外よりの注文は、我國の產業を催進誘與し、貿易狀態は急轉直下し、非常なる發展を遂げて從來の經濟狀態を一變せしめ、世界に於て有名なりし債務國は、一躍して債權國の位置に立たんとするに至つた。日露戰爭以來世界第一の債務國としして常に輸入超過のみにして、正貨の流出は國家の經濟を危態に陷らしめ、同盟國英吉利をして日本の破產を危惧せしむるに至り、外債整理の爲めには内閣も瓦壞せざるを得ないこともあつたに不拘、聯合國側に加擔し友誼に報ゆるに信義を以てした爲めに、今日七億の正貨は國内に充實し、世界の金貨

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

國たる英國に對し一億圓の債權者となり主客顚倒を見るに至つたのである。

□羅馬興亡の教訓

更に世界の大局より之れを見るに、賢明なる首相アスキス氏を戴き、八年の星霜を世界の指導者たりし英國内閣は、此の國家危急存亡の際にも不拘、遂に交迭するの止むなきに至り、ロイドジョーヂ氏を擧げて宰相たらしめ、軍國に適切なる内閣を組織し益々戰意を堅うせしむるに至つた、ヘンダーソン氏は敵國獨逸が、老ひたるも幼きも國家の男子を擧つて兵卒たらしめ、所謂擧國一致戰ひに參しつゝあるを指摘し、英國に於ても男子のみならず婦人も起つて國難に身を捧げよと叫んでゐる。佛蘭西は申すに及ばず他の聯合諸國に於ても國家を賭して戰爭に從事してゐるのであるが、今翻つて我國を見るに、一擧膠州灣を屠つて更に南洋に轉戰し、獨逸の勢力を極東より驅逐し、媾和會議に參列の權を有して今尚ほ交戰狀態にある筈であるが、國民は目前の不慮の均霑に歡喜して國難後へに迫れるを忘れ、醉陶義人の叫びに耳を假す者尠きは痛恨の極である。見よ帝國の關門品川に再び醜骸を曝さんとするも國民自ら恥づる處を知らず、日本產業の中心たる大阪には市民の一大淫蕩地を公設して、墮落を勸獎するの咄々怪事が行はれてゐる、世界の大勢を知らざるも亦甚しい哉て、何れの處にか今日公娼問題に煩はされて居る程の暢氣な國家があらうや。

孟子は「敵國外患なき者は國亡ぶ」と云つて居る。日本の諺にも「樂は苦の種苦は樂の種」といふことがある。現今の日本が正貨充實の好景氣に乘じて贅澤三昧に耽つてゐる現象ありとせば、以て國家の盛衰を卜するに足る。彼の羅馬が伊太利の一隅より蹶起するや、堅忍不拔よく四隣を會し連戰連捷、向ふ處敵なき有樣であつたが、彼が四面楚歌の間にあるや、糧食に軍費に其他凡百の武備に於て擧國困苦窮乏臥薪嘗膽以て他日驚天動地の活躍の素地を作つたが、其漸く戰へは捷ち攻むれば取り威風四方を靡かして掠奪せる財寶山を築くに至り、國富んで民驕るの諺に洩れず、漸くにして驕慢淫逸、遊惰風をなして肉慾の奴隷と化るあるに及び、蠻族の一蹴にさしも強盛を謳はれし羅馬大帝國は蹂躪せらるゝに至つたのである。試みにローマの舊跡を探らんか、二千年の昔ベスビアス大爆發によつて全市を陷沒したるポンペイ市街の發掘は、以て當時の消息を覗ふに足るものがある。市の入口には直立不動の姿勢の儘に熱灰に埋められて化石となりたる番兵を見るが、これは其當時當番であつた兵卒が職務に殉したる眞摯なる一面を物語つてゐるものであつて、如斯兵士を有する羅馬軍隊の戰捷が偶然でないのを知る事が出來る。然るに足を一歩宮殿の癈墟に入れんか、眼に觸るゝもの皆淫猥ならざるなしで、一切の裝飾一切の器具は如何に羅馬貴族が淫酒邪色の奴隷たりしかを語らぬものとてはない。此の中は現に婦人の參觀を許さないことになつてゐる程で、此一事容易に淫猥の空氣を想察するに足る。而して曩の兵士と此の酒池肉林とは好個の對象をなして居つて、そこに興亡の象徵が明瞭に讀まれる。

即ち規律正しき此の軍隊を有するが故に羅馬は興り、而も其の戰捷は上流社會をして榮華に飽かしめ肉慾の虜たらしむるに至つて亡んだのである。彼此相對照して千載の後豈感慨なきを得んやである。

□清朝滅亡の原因

歷史は羅馬の盛衰によつて我等に一大教訓を提示してゐる如何に強大なる軍隊を有し殷盛なる商工業を有し、國家の富強を誇るとも、荒怠相戒め質朴勤勉にして自彊止まざるに非ざれば遂にローマの轍を踏むに至るであらう。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

我國に於ても日露戰爭以來十數億の外債を負ひたるのみならず、年々一億圓の輸入超過は、常に國庫窮乏して國民は重税と不景氣とに苦しんでゐた。然るに歐洲に戰亂始まつて以來輸入超過は輸出超過の好況を呈し、遂に現今に於ては七億圓の金貨を有するに至つた。國內漸く富んで人心漸く弛廢し、警醒を緊要とする時に當つて我等が風紀の振肅を叫び、遊廓問題に焦慮する所以ありと謂ふべく、孟子が敵國外患なき者は國亡ぶと喝破し、羅馬の歷史を播いて、吾人の運動の須臾も忽せにすべからざるを痛感するのである。

福島大將は軍人中の讀書家と云はるゝ人で、諸君も知らるゝ通り中佐の當時、獨都ベルリンよりシベリアを旅行して歸つた方であるが、明治三十三年支那に義和團事件が起つた時に、大將は能く支那の事情に通じて居らるゝので選ばれて其の局に當り、軍事上のみならず政治上に於ても効果を收める事が出來たが、暴徒が平定して宮廷に饗應せられた時に、種々と山海の珍味のある間に、支那通を以て任ずる大將にも分らない料理が出た。それは蛙が地中に冬籠りする時に多くの脂肪を蓄へてゐる其の脂肪を採つて料理した珍品であつた。更に今一つは我國に於て珍味とする鯛の眼肉に似て、羊の眼肉を料理したもので、一羊を以て辛やく一人前を料理するの大みであるから、之亦非常な珍味であつて、さしも支那通の大將も一驚を喫せざるを得なかつたさうである。これ當時支那の貴族が如何に榮華に耽つて居たかを語るものであつて、而して其裏面には支那國民は一般に重税の苛斂誅求に苦しんで居たのである。羅馬帝國の昔に於て見る黃鳥の舌を以て珍味として居たと思ひ比べて、大將は清帝國の滅亡遠きに非ざるべしと云はれたが。斯くて大將の豫言は見事適中した。尨大なる大清朝廷も史上何等特記すべき理由なくして滅亡するに至つたではないか。

□戰後の一大經濟戰

今日獨逸が總ての點に於て歐洲列國中優勝の地位を占めてゐるのは、平常の訓練宜敷を得たからである。英國は平時三十萬の義勇兵のみであるにも不拘、開戰以來五百萬の精銳を送つてゐるのみならず、上下擧つて敵國獨逸をして膺懲するに非ずんば止まざるの意氣を示してゐる。此時に當つて我日本國民は地理上の關係によつて意を安んじてゐる事が出來、交戰國であり乍ら國民は克巳精勵の氣を弛めんとしつゝある今にして心せずんば悔を千載に胎すの虞れがある。歐洲列強は莫大なる戰費を費して非常なる經濟界の壓迫を來してゐるから、やがて平和克復の後彼等は猛然として戰費の回收に努め、經濟戰は嘗て見ざる激烈を極むるであらうといふ事は、容易に想像さるゝ處である。されば其時に當つて實力なくして得たる國家の富が如何になり行くであらうか、所謂成金が蠢動しては肉慾と虛榮の爲めに徒消し、不健全の氣を社會に漲らしめられつゝある現狀に於て、やがて來らん一大經濟戰こそ實に國民の戰慄に値するものでなからうか。

□夫婦愛なく父子信なし

然らば今日に於て吾人國民のなすべきものは何であるか、

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

そは根本から健實なる國民となる事である。『君子の道は端を夫婦に發す』といふ言葉があるが、夫婦健全にして社會亦健全なるを得るのであつて男女道德は實に諸德の根源であり國家盛衰の根本は從つて男女間の貞潔問題に歸するのである。然るに我國の如く富者は妾を蓄へ藝妓を弄び、政府は公娼を設置して男女の不義不德を保護奬勵するの狀態では、戰亂後の大競爭に落伍者たらざるを得ないではないか、世界に於ける男女の數が常に相半せるは天意自ら一夫一婦の正理を語るものでなくして何ぞ、夫婦相和し長短相補ひて始めて人たるの本務を盡す事が出來る。和氣靄々たる家庭に生るゝ子は親を信ずる事深く、父子信あり、圓滿平和にして生の發展が期せられる。從つて國家も隆昌を來すのである。

然るに夫は妾を蓄へ妻亦姦するといふ風にして、夫婦相欺き相欺かるゝといふ風では、家に誠なく、其間に生るゝ子供は善良なる人格の發展があるべき筈がない。即ち日本の社會に特有な、上流の家庭から不良少年となつて現はるゝのである。歐洲諸國に於ける不良少年は多く繼父母の虐待によつて家庭を飛出し無賴の徒に伍するのであつて、下層貧困の階級に限られてゐる。然るに我國は兩親揃つた而も上流の階級から不良少年の生じつゝあるは、經世家社會問題研究家の重要なる問題であるが、家庭に誠なく虛僞に充てる間に人となつて無賴の徒たる又宜なりである。之れ恰も身中にバチルス潛在して外病を生ずる一般である。されば吾人は先づ身中のバチルスから殄滅せなければならぬ。假令大和魂が日本國民のお自慢であるとしても、婦人の人格を認めず、婦人を玩弄物視するが如き國民は、畢竟之れ男子のみの社會であつて、今日の如く約六億の人口が交戰狀態にあるが如き時代に於て、其半數たる婦人の勢力價値實力を否認するに於ては、大和魂は先づ其數に於て敗れなくてはならない。

今や我大阪に於ては、其の姉妹を奴隷とし、其の同胞を蹂躙する遊廓なるものを增設し、特に其の醜屋の建設を見んとしつゝある。而して之を許可し、之を翼贊する人々の無恥暴横眞に慨歎に堪へない次第であるが、更にその屆出及び總て其成立に必要なる運動に對して自己の姓名を出ださずして法人を作り、影武者となり罪を會社に歸して醜業を興さんとしつゝあるが如きは陋劣眞に唾棄すべき極みであると思ふ。

□青年を侮辱する政府

世間ではよく若い者はどうも困るとか、若いから仕方がないとかいふ、そして年をとれば思慮も定まる品行も修まるといふ。けれども之れは私は反對であると思ふ。凡そ妾を蓄へたり藝妓を玩んだりするものは金錢の自由の利く中年以上の者である。然るに少年或は青年は却つて理想を高調し、理論と主義とに生きんとする者が多く、苟も道德的に唾棄すべき行爲は之を進んでするが如きは今日の青年の堪へざる所である。今日の青年は彼等中年者の如く男女道德上の前科者でない丈に恥ぢを知つてゐる、少くとも臆病である飛田遊廓が其の設置の理由を青年の慾望を滿足せしむる遊廓を興へざれば良家の子女を害し社會の風紀を紊すといふに藉口せんとするは、畢竟現代青年を侮辱するの甚しきものではないか、青年たる者宜敷立つて吾人は當局の信ずるが如く下劣なる者に非ずと辯じ、其反省を要求すべきである。

吾人は世界に於ける帝國の地位を意ふ每に、實力なくして富み、陶然として蹣跚たる醉餘の國民の頭上に霹靂鳴動、暴風殺倒して周章狼狽を極むる時が來らん事を憂懼の情に堪へず根本たる男女問題より醒覺を叫び國家百年の大策を議せんとする次第である。

法律に對する當路の謬見

早稲田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

□法律はもとより尊重すべし□
□然れども固守すべきに非ず□

我々が今日に於ける萬般の生活に於ては法律を以て最大の力として居る。立憲政治は或る意味に於て確に法治國である、斯るが故に我々國民としては、自己の代表者を選擧し之れを帝國議會に送つて、我々の必要とする法律を作るのであるから、我々は之に對し寸毫の異論もないのみならず、之に服從し尊重するは勿論の事である。併し動もすると如斯狀態より生み出された法律を、大變誤解する事があつて、或は役人抔が之に對する思想を履き違へては居らぬかといふ疑念を懷かしむるやうな事がないでもない。それは何であるかと謂へば、法律は非常に尊いと考へるのは結構な事に相違ないが從つて之れに服從す可きものである故、之れを改むる事も容易に出來ぬといふ考へである。

何か事件が勃發すると役人は直ぐ法律を擔ぎ出して、一體法律上何うであるかとか、又は前の判決例は何麼いふ塩梅だつたかと、戰々恟々法律に違背せぬ事のみを冀つて居る。役人の大多數は斯樣に考へて居る。

元來法律は其實行期間に於ては國民が絕對に服從す可き義務があり權威が在るが、國民の思想が漸次變化進步し行くに從つて、法律が之れに相伴はざる場合に改正するは寸毫の躊躇も要らない筈で、斷然改正を爲して行く可き性質のものである。之れをもつと痛快に論ずると法律は國民の思想より常に遲れ勝ちのものである。思想が進むで法律が其後から徐々に尾行する形であるから、餘りに法律を固守する事は、國民の思想と法律とを益々其懸隔甚しきに至らしむる者となる。故に法律は遠慮なく改正を施し、之に拘泥しないやうに時勢と共に進めて行くべきものと考へなければならぬのに、餘りに尊重し過ぎ有り難がり過ぎて進步改正する事を忘れるのが現今の役人の思想である。法律は服從す可き義務はあるが、改正するは些つとも差支ないと考へる樣に教育する必要がある。而して常に新しき法律を作り出して國民の思想に可成懸け離れぬやうにしたいものである。

□個人の自由を履き違ひせる役人□
□品川燒失貸座敷の善後策は如何□

同時に國民、殊に役人に誤解があると考へられる事は、個人の自由に就てゞある。之も立憲政治に於ては極めて大切であつて、我々個人の自由を尊重して行く事は喜ばしい處である。然るに官吏氣質の人々は此個人の自由といふ事に就ても少しく其意味を履き違へて居るやうな傾きがある。今日迄對

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

建時代に於て我々は非常なる壓迫を蒙つて居たから、其反動として我々國民は個人の自由と謂へば、國民の絶對の權利と考へて居る。或る意味に於て至極良い事である。人民の權利は國家も之れを奈何ともする能はずといふ考へは實に其宜敷を得て居ると云はねばならぬ。

私が廓清會の立場から例を擧げれば品川の遊廓が今度火災の厄に遭つた、其場合に再建の可否は役人の考へに整然と決定して居る。(勿論之れも法律的に依つて然らしむる處であるが)つまり燒けた場合には本普請を爲す權利や、又戸主の死亡後に於て家業繼續に就ての事の權利等がちやんと定められて居る、故に之等に對しても如何とも爲し能はずと考へて居るのである。我々は法律を任意に改正する事が出來るから、自然權利といふ事も存在したり又は消滅したりする譯である。個人の權利を一偏與へたが最後、未來永劫決して變る事がないといふ話はない。矢張り法律に依つて與へられたものは、又法律に依つて滅するは理の當然である。故に個人の權利も少しづゝは制限されて來なければならぬ。

口獨逸の大部合に於ける建築條令を見よ口
口社會の利益の爲には個人は犧牲にすべし口

もう一例は家屋の建築に關する類で、獨逸の大都會に於ては建築物に對する法律があつて、東京ならば日本橋或は銀座通りといふやうな繁華な道路に於ける家屋の建築に對しては獨逸政府は之れに干渉して居るのである。如何に個人の權利と金力を以つてしても、社會公衆の不利益となる如き建築法は許可せぬ事になつて居る。我東京市に於ても近年如斯說を爲す者があるけれども、當局者は其必要は現在認めて居り乍ら、若し個人の權利から生れる反對でもあると困る杯と、實行を躊躇し居るの現狀で、之等は餘りに個人の權利に就て其意味を飽く迄も擴張し過ぎ、從つて其内容を履き違へてゐる感がある。公衆の利益の爲めには斷然建築條例を制定するの必要のあるは謂ふ迄もないとなのであつて東京市全體の利益であると認めたならば個人の權利を犧牲にするが當然であり、之は我々が社會の團體生活上に極めて大切な事柄であると思ふ。其處で來年から之れを改正せよといふ事は無論出來やう筈はないが、要するに之等の事は永久の問題であるから、假りに卅年後には木造を廢めて煉瓦又は石造に改築するやうな方法でやりたい。而して三十年前に木造の家屋が燒失した場合には、石又は煉瓦にて造る事と法律で制定するは少しも差支のない事である。然るに之等極めて容易な事すらも出來ぬのは、其原因は内務省其者が個人の自由を考へ違ひして居るからである。

口永年法律の運用を忘れて居つた私娼撲滅口
口四宿移轉の必要は當局も認め乍らの怠慢口

右の如き事情と同樣に街路に面する遊廓の移轉は、我々が敢へて絶叫する迄もなく内務省當局者も、其必要を認めて居るのであるが、之等も矢張餘りに個人權利の尊重の誤解から姑息逡巡惡いと知りつゝ適當な處置をなし得ない。現在の内務省の方針から謂つても、目今東京附近に存在する品川、新宿、板橋、千住等の各遊廓は之れを一時に廢止する譯に行かぬとすれば、せめては移轉するの心懸があつて欲しい。當

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

然移轉せしむべき義務があるにも係らず、一向方針のない爲めに好機會の火災等があつた場合も、之れを取り逃がして常に困つて了ふ樣に立至る次第である。全く東京市の玄關に遊廓が存在して居るといふ事程、市の體面上不合理な話はない、故に之れを急速に移轉するは個人の權利を無視するから、二十年後或は卅年後には斯樣にするとかいふ法律を制定するは何等の不都合を感ずべきでない。

茲に吾等が法律問題に就て少しく變に感ずるのは內務省の人達が法律を楯に取つて頗る矢釜しく云ふ事である。過般の私娼撲滅の如き卽ち夫れであつて、時に考へ出したやうに勃然と騷いだ。元來私娼撲滅といふ言葉を殊更用ゆる必要なく、昔から私娼撲滅杯といふ事はある可き筈がない。然るに長年之れを公認し不意に斷行した結果は、公許されたものと見て居た彼の周圍の商人等を隨分困らせたのである。

□法律を矢釜敷いふ役人が法律を無視する自由廢業□
□節操を蹂躙さるゝ無告の奴隸は何等の悲慘ぞや□

一體右の事實は品川樓主に移轉を嚴命する事と寸毫の異なる點がない筈である。何故かなれば法律を以つて事を斷行する當局は、矢張其向ふ處に據つて行ふ可きであるが品川は一片の法律の權利を持つて居る處から、私娼撲滅の類と異なる方法の擧に出でゝ居るのである。從來の習慣上燒失されば又再建する權利があるやうに誰も彼も考へて居るから、反對する人達も餘りにないのであらうと思ふ。如斯今迄極めて緩漫であつた者が、急に思ひ出したやうに突然不意打を爲すが如きは不思議の感に堪へぬ。品川遊廓問題も內務省の徹底的方針に斷行して貰ひたかつたのであつた。

最後に望む處のものは、內務省の法律を是非共徹底して貰いたい事がある。夫れは自由廢業である。元來自由廢業に就ては法律文から謂へば、之程徹底した法律はない。條文が如何にも明瞭であつて而して其實行頗る容易な事になつて居る。斯く明瞭なる事實に對して內務省は勵行して居るかどうか。今日迄自由廢業に就て勵行した例は聞いた事がない、法律を矢釜しくいふ政府が一方に、法令は殆ど空文で、事實は全國悉く常に不自由廢業であるは如何。何れの廢業でも其救濟當事者は命懸で助力せなければ自由廢業が出來ぬといふ救世軍が今日迄如何なる犧牲を拂ひ來つたか、或時は惡漢の襲擊に會ひ或時は脅迫に會ひ、殆んど言語に盡し難き困難と打ち戰つて遣らなければ出來ぬといふ、內務省が如斯立派な法律を設けて置き乍ら、之を勵行せぬ許りか却つて法律を曲げるやうな態度を執るのは、甚だ大なる矛盾であると謂はねばならぬ。斯の如きは實に人道上の大問題である。若しも自由を阻むるやうな事があつたなら、本當の自由の貞操に關するが故に、輕々しき事件ではなくなるのである。當局にして眞實人權を重ずる方針であるとすれば、如斯場合こそ內務省當局は最高の個人の權利を認むべきではないか。憫れむべきは眞に無告の奴隸である。

日集(一)

▲救世軍の伊藤大尉曰く　明治の初年には江藤新平といふ偉人があつて、日本の藝娼妓を解放して、芳名を千載に殘したが、大正の初年に後藤新平といふ人があつて、內務大臣になつて居るが、飛田問題や其他の遊廓問題を如何處置するか見ものである、江と後とはどう違ふであらうか要するにたつた一字の違ひだ。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

立憲思想の涵養

早稲田大學教授
廓清會理事 内ヶ崎作三郎

□立憲思想宣傳の機會

既往は趁へども及ばぬ。切めて今後は、未來の帝國を背負つて立つ可き青年に丈けにでも健全なる立憲思想を涵養させ度い。國民が立憲的に覺醒して居ないと云ふ一事は、國家の福祉、國民の元氣の上に如何ばかり重大なる障礙となつて現はれるか、其の害惡は殆んど圖り知れない。現下、恰も、帝國議會は解散となり、我等國民の上に早速此の重大問題が投せられた。立憲思想の宣傳には、今日は幸ひ最も適好なる機會に際會してゐるのだから、立憲思想養成の一事に志あるの士は一齊に奮ひ立つて「覺めよ國民、立憲的」にの叫びと共に無自覺の古城に栖籠る衆愚に向つて、最後の吶喊を試みねばならぬ。

□英國憲政の基礎

立憲思想に於ても、自治的精神に於ても、世界の模範的國民たる英國民が、如何に歷史的に傳習的に其の思想、其の精神の涵養に向つて努力し來つたかの實例を玆に述ぶる必要がある。

英國歷代の總理大臣は、何れも國教會即ち聖公會に屬して其大監督を推薦する役目がある。元來英國の教會は國教會と非國教會とに分れ保守黨は何れも國教會、統一黨は非國教會に屬してゐるが歷代の總理は何れも國教會の出で、非國教會からは、今度のロイド、ジョーヂ一人位のものである。而して此の國教會派即ち聖公會は何處迄も自治的で、各教會が單位となり所謂會衆政治を爲してゐる。長い間の斯樣な傳習は厭でも自治的精神を發達させねば置かぬ。又蘇格蘭に於て特に自治的精神が異常なる發達を遂げてゐるのも十八世紀代に於てチョンノックス等が宗教を支配し長老を嚴重に監視し個人審問をしたりなどして盛んに激勵し、長老は、又教會所屬の信者の家庭を時を定めて巡覽して廻り、夜分など主人が一家團欒してゐないと、早速呼び付けて何處で何をしてゐたと云ふ事まで審問し、惡い事をしてゐた者には、心から悔改める迄に說く、斯くの如くして、蘇格蘭人は道德的に意志が洗錬され、自治的精神が發達して來たのである。今日英國に立派な立憲政體が布かれ、國民も情實感情等に支配されずに能く良心と主義政見とに依つて自己の與へられたる權利を行使し立派なる人格の政治家をして國政を攝理せしめ、以て大英國今日の隆昌を來たした所以も、基く所は個々の自治團體が長い間に國民一般に立憲思想を涵養し來たが爲である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

□選擧界の現狀を慨す

翻つて我國選擧區界の實況を觀よう、我が選擧區民の實際は金力と權力と情實のみに支配され、毫末も良心や政見の發動に依つてゐない。其爲め被選擧人の苦心と浪費とは非常なもので實に同情に堪へない。立派な人格と政見とを有つてゐる候補者も、選擧區民が唯だ緣類知己の關係や金力權力等に依つて左右され風車の如く變轉常ないが故に、自ら彼等の愚に投ずるでなければ其の志を遂げることが出來ない有樣である。斯かる我國民一般の迷夢を覺醒させて、健實なる立憲思想と自治精神の曙光に浴せしむるには、前に述べた如く自治精神を鼓吹す可き自治團體の勃起を促すより外ない。

□神官僧侶牧師の覺醒を促す

自分は、我國民を立憲的に習錬させる爲には宗教改革が必要であることを想ふ者であるが、と云つて從來の僧侶や神官を廢す可しとは云はぬ。改革の要旨は彼等をして立憲の大精神を能く諒解せしめ、其の信者に對し平素と雖も怠らず倫理や道德以外に公民として眞精神を說かしめ、選擧のある度に其の神聖なる所以、其の目的、人格と識見とに人選の規矩を置く可きこと、選擧に臨みて良心の發動を促す可きこと等を說敎せしめて行つたなら國民一般が立憲的に眼覺むるに至るは決して困難でない。今日の我が國の神官や僧侶は一體何をしてゐるのであるか。彼等は加持祈禱と賽錢の多からんことのみを信者に求めて、信者に對しては何物をも與へてゐない。之は勿論從來の社會制度も惡いには相違ないが、此の方面に關する國民の未自覺は、國民の精神界を支配す可き任務ある彼等が、座視するに忍びない一大事ではないか。今や好機會に逢着してゐる。吾等は、我が僧侶神官と云はず、牧師傳道師と云はず、一齊に立つて立憲の爲めに獅子吼す可きであると信ずる。

□ 曰 く 集 (二) □

▲山室軍平氏曰く「私は從來選擧に對しては棄權して居つたのであるが、安部さんの「誰を選擧すべきか」を讀んだら棄權の不可い事が書いてあるので、それから投票する事とした、が偖それでは誰を選んだものかと考へて見ると見當らない。聞いて見ると安部さんも內ヶ崎さんも郡部に住んでゐる。廓淸會の人達は、高木さんを選擧するとの事であつたから、それぢや高木さんは立派な人だらうと思つて同氏に私も投票しましたが、今度品川の貸座敷の爲めに漆昌巖氏や高木正年氏が運動せられるといふ事であるから、それぢや丸で私の神聖な一票は貸座敷側を助けるやうなものだから、やつぱり棄權する外なくなりました、困つたものですね。」

▲海老名彈正氏曰く「女はもつとうんと強くならなくてはいかぬ。男など恐ろしくて側へも寄れない樣に强い確乎とした人間にならなくていかぬ。それで貰ひてがないなら行かなくてもよいではありませぬか、そんなにやく〳〵した女を欲しがるやうな意氣地なしな男と、結婚生活を許すべきではないでしやう。なあにさういふ堂々たる女を欲する男も世の中には居ますよ、私が若いと確に居つたのですがね。」又曰く「基督が獨身であつたに就ては大分議論があるが、あれは私の考では獨身主義でなくてはならぬと考へられた結果といふよりも、基督の伴侶になる程の女がなかつた爲めでしやう。實際、とてもさういふ婦人は見當りませぬよ、つまり對手がなかつたからですネ」

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

活動寫眞に關する調査（二）

ドクトル　三田谷啓

□小學校兒童と活動寫眞

予は更に進んで小學校兒童が如何なる程度に於て活動寫眞を見るやを知らんため知人に請ひて其調査を委囑した。予は今これを綜合して統計的表を製せんかとも思つたが各地方に於ける二、三の材料を合して統計を造り以て其比例を算出するは割に價値少きを思ひ、且讀者に參考の資料を供する目的で材料其まゝを地方別にして掲出することにした。そして二三のものに就て臨機比例を算出することにする。

以下に掲ぐるは生徒の活動寫眞を見る頻度を示したものである。假にこれを甲表第何表と名づく。第一表は東京に於ける調査材料は本郷區（二校）神田區麻布區及び下谷區の小學校に於て得たものである。調査の時日はS及びMaが大正四年五月、K及びNが同年六月、Mが同年七月である。

甲表（第一表）

		S	K	Mi	N	Ma	計	男女計
生徒數	男	四八一	三九七	四八七	四九八	二五三	二一一六	四一五九
	女	四五一	四三四	四〇一	四五九	二九八	二〇四三	
一回も活動寫眞を見しことなきもの	男	二八	一九	三五	三六	一〇	一二八	二六九（六・四〇%）
	女	二七	一九	三五	四九	一〇	一四一	
從來稀に見しもの（一回乃至五回）	男	一六七	七一	一五六	一五一	六〇	六〇五	一三二三（三一・七%）
	女	二〇八	八四	二〇〇	一二三	一〇二	七一七	
時々見しもの（毎年一回乃至五回）	男	二四一	一七一	二二五	一四九	一一二	九〇三	一七〇五（四〇・九%）
	女	一八八	一八六	一三〇	一六二	一三六	八〇二	
毎月一回乃至三回見しもの	男	四〇	一三六	七一	一六二	七一	四八〇	八六三（二〇・七%）
	女	二八	一四五	三六	一二五	四九	三八三	

甲表第二表はH及びE共に大阪市西區の小學校で調査は大正四年七月である。

甲表（第二表）

		H	E	計	男女計
生徒數	男	八〇三	五五九	一三六二	二六九三
	女	七七一	五六一	一三三二	
一回も活動寫眞を見しことなきもの	男	一一	四〇	五一	一二五（四・六%）
	女	三九	三五	七四	
從來稀に見しもの（一回乃至五回）	男	二三五	一二一	三五六	八一五（三〇・二%）
	女	二七四	一八五	四五九	
時々見しもの（毎年一回乃至五回）	男	二九三	二四九	五四二	一〇〇六（三七・三%）
	女	二五二	二一二	四六四	
毎月一回乃至三回見しもの	男	二七三	一三九	四一二	七四七（二七・二%）
	女	二〇六	一二九	三三五	

甲表第三表は神戸市のM小學校に於ける調査（大正五年六月）である。

甲表（第三表）

M	男女計	M	男女計

	男	女	計
生徒數	九二五	七六七	一六九二
一回も活動寫眞を見しことなきもの	四二	五一	九三(五・四%)
從來稀に見しもの(一回乃至五回)	二三三	二八五	五一八(三〇・六%)
時々見しもの(毎年一回乃至五回)	二七七	二一二	四八九(二八・九%)
毎月一回乃至三回見しもの(三回以上も含む)	三七三	二一九	五九二(三四・九%)

甲表第四表は東京府下南葛飾郡のK小學校で女兒部に就て調査(大正四年七月)したものである。

甲表(第四表)

	男	女	
生徒數	—	一〇五六	
一回も活動寫眞を見しことなきもの	—	〇	(〇%)
從來稀に見しもの一回乃至五回	—	一四〇	(一三・二%)
時々見しもの(毎年一回乃至五回)	—	二三四	(二二・一%)
毎月一回乃至三回見しもの	—	六八二	(六四・五%)

以上各地の表を綜覽に便するため集めて見ると次の如くである。

	東京	大阪	神戸	東京府下*
調査生徒實數	四一五九	二六九三	一六九二	一〇五六
一回も活動寫眞を見ざるもの	六・四%	四・六%	五・四%	0%
從來稀に見しもの(の一回乃至五回)	三一・七%	三〇・二%	三〇・六%	一三・二%
時々見しもの(毎年一回乃至五回)	四〇・九%	三七・三%	二八・九%	二二・一%
毎月一回乃至三回見しもの	二〇・七%	二七・七%	三四・九%	六四・五%

*女兒のみの調査三回以上のものを含む

前記の表は頗る興味のあるものである。東京、大阪及び神戸に於ては一回も活動寫眞を見ざるものは四・六%乃至六・四%の間に在り。東京府下の小學校は東京市に連續せる町の小學校女生徒で中流以下の家庭のものが多いため多く此安價なる活動に出入するに至るのであらう。活動寫眞を見ることの頻度は少きものより多きものに向つて多くなる傾向あり。これは注目すべき點である。

乙表の材料は甲表と同じ小學校にて甲表の調査と同時に蒐集せられたものである。

兒童が最初誰と活動寫眞を見物に行きしかを見るに右甲表及び乙表の材料を蒐集する際答へ得たるものを綜合すると次の如くである。

	男	女	計
父母と行きしもの	八五九	二二九	一〇八八
兄弟姉妹と共に行きしもの	四一六	三七八	七九四
召使と共に行きしもの	一三二	一二八	二六〇
友達と共に行きしもの	七八	五四	一三二
伯父母と共に行きしもの	二	二	四
親族と共に行きしもの	四	九	一三
單獨にて行きしもの	一	—	一
隣の人と行きしもの	—	三	三
祖父母と共に行きしもの	一	—	一
其他	六八	四	七二

此調査全數の少なくなつたのは兒童の記憶不十分なりしものを悉く除いたからである。その外に尚ほ神戸のM小學校に於て調査したものを掲げて見よう。

最初活動を見に行きし同伴者

父	六七四	祖父母	五六	單獨	一三
母	五一〇	召使	一〇	其他	四九
兄弟姉妹	二四六	友達	四一	計	一五九九

更に神戸某幼稚園で調査(大正四年六月)したものによると次の如くである。その幼兒の年齢は五歳、六歳、七歳である。

	男	女	計
活動を見たる幼兒數	七三	七二	一四五
主として父又は母と共に見に行きしもの	一〇	六	一六

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

一主として兄弟姉妹と共に行きしもの　男 一七　女 一二　計二九
主として召使と共に行きしもの　男 五　女 三　計八

兒童が最初活動寫眞を見に行きし年齢は次の如くである。材料は東京市内の三校、東京府下の一校大阪市の一校より得たものである。これを總括したるものを甲と名け神戸のM小學校に於ける調査を乙として相對照して見やうと思ふ。（但し此表は男女を合計したるものである。）

兒童が最初活動寫眞を見に行きし年齢

	甲	乙		甲	乙
三歳	七	一〇	八歳	二六三	一八九
四歳	三八七	六七	九歳	一四三	九四
五歳	六〇八	二五三	十歳	四三	六五
六歳	四八〇	四四五	十一歳	二一	一四
七歳	四〇〇	四三四	十二歳	一	五
計				一五九九	

□活動寫眞と少年犯罪

不良少年又は少年犯罪等のうちには精神異常のものが多くある。又神經質のものも少からぬのである。而してこれ等の兒童のうちに暗示性の非常に強いものがある。斯かるものが活動寫眞の如き煽動性のものによつて暗示を受けることは著しい事實である。活動寫眞を見て竊盜を思ひ立つた少年は既に多くある。即ち活動寫眞映畫の中で上手に竊盜を行ひうまく逃げ盡して遂には其金を以て大盡遊をするが如きものを見ると、精神の抵抗力弱きものに於ては然らば自分もやつて見やうと思ふに至るのである。暗示性の如何に強い力を持つて居るかと言ふことは華嚴の瀧に藤村某と言ふものが投身し、哲學的思想がどうだかうだと新聞に書き立てると直に其模擬をやるものが多く出て來る。これが即ち暗示性の作用である。

少年時代は冒險を好み且性慾のことに興味を持つやうになるなり。斯かる時代に於て活動寫眞の惡例は誠に有力なる教科書となるのである。

横濱監獄の小田原分監で少年受刑者の告白を調べたものがある。即ち大正三年に百五十人の少年受刑者に就て趣好癖の檢査した。然るに最も多いものは活動寫眞で百五十人の中實に九十四人を數へたのである。其他の惡癖として數ふべきもの、例へば芝居を好むもの（六一）、煙草を好むもの（四二）、酒を好むもの（二二）女買を好むもの（一四）等は何れも活動寫眞を好むもの丶數に達せないのである。

□活動寫眞の利益

活動寫眞の教育の材料とすれば利益を收め得らる丶。これ其映畫によりて兒童は直觀的に學び得るからである。それ故教材として應用の出來るものが澤山ある。例へば

一、歴史　二、地理　三、動物、植物　四、農商工業、五、軍事　六、風俗習慣　七、お伽、傳說類

其他まだいろ〳〵あるであらう。百聞一見に如かずと言ふことがあるが百の說明より一度實物を見た方がよくわかる。活動寫眞は此點に於て實に重寶な發明と言はねばならぬ。

我國に於ては活動寫眞の利益を得ることの設備殆ざなく、歎ずべきことである。害を甘じて受けつ丶利益を得る道を講せざるは矛盾の甚しきものと言はねばならぬ。

□活動寫眞の害

活動寫眞館に於て兒童が受ける害惡は凡そ二方面に分かつことが出來る。

一、身體的方面
二、精神的方面

□身體的方面

活動寫眞は間斷なく動いて居る。其動いて居るのを次から次へと見つめるのであるから觀客の視器を働かせることは頗るはげしいのである。視神經はこの爲め大に刺戟を受けるのである。

活動寫眞館の中は概ね空氣が惡い。其空氣のわるい中で幼少のものが永い時間居ることは甚だよくない。呼吸器の疾病等はこの爲めに起り易い。若し其觀客中に結核、百日咳、實扶的里等の傳染病の人が居たら他人に感染の恐れがある。

神經は活動寫眞を見ることによつて刺戟を受け興奮して睡眠をさまたげる。夜中遅くまで寫眞館に居て眠る時間が經過して居るにも拘らず歸宅して床に就ても容易に睡られぬ。睡眠不足は一種の營養不良である。

□精神的方面

今日我國で行はれて居る活動寫眞は殆んど皆大人本位に作られたフイルムを用ひて居るのである。大人を本位にして造られたフイルムが兒童の爲めに適せぬことは言ふまでもない。然るに何故兒童がそれを喜んで見に行くのであらうか。觀客の好奇心を煽動する爲めに活動寫眞は實に馬鹿氣た滑稽物等を含めて居る。例へば惡戲を好む者が次から次へと手に觸るものを悉く壞してかゝる。又は他人のものを盗んでうまく逃げて、巡査は盗人の跡ばかり無益に探して居る、と云ふわけである。そしてそれが次から次へと展開して行くのであるから、兒童でも面白いことは當り前である。然るに大人ならば笑つただけで濟むが兒童は暗示性が強いからフイルムから暗示性を受けて自分がやつて見たくなる。實際やつた兒童が少らずある。先達東海道を列車の下にぶら下つて運ばれた子供も活動寫眞を見たのが此企を起した本だと言ふことである。

救世軍婦人ホームの歡入

もつと甚しい關係は人情物である。思春期の時代にある兒童は精神及び身體が一種の危機に置かれて居るのである。其時に性の問題が頻りに男女青年の頭を往來する。然るに猥褻の活動寫眞は觀客の性慾を刺戟し且種々の惡いことを敎へる。この暗示を受けて惡い方面に行く兒童が居る。精神異常の兒童は殊に此等のフイルムによつてはげしい害惡を受けるのである。

成人であれば只見たがかりですむが兒童ではさうは行かぬ。模擬性や暗示性が強いためである。活動寫眞が幼少又は青年時代のものを直接或は間接に害して居るとは著明の事實である。(未完)

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

私娼問題を論ず(一)

菅原生

創世尚混沌たりし時、造物主は此處に蠢々たる所謂人間なる者を芽生せしめたり。以來暦日歳を重ねて幾多の人種、雜然として此の地球表面上に蟠居し紛々然たる中を一貫して尚今日に及びたる者あり、則ち性慾及食慾なりとす。神の與へられたる生命を持續せんには營養重大にして之が爲には他の死も顧みず、又自己の生命の後繼の爲には尚自己の生命も絶たんとする者則性慾なり。此二大貫流たる性慾及食慾の中性慾に就ては古來幾多の學者に依り論議ぜらるゝとは謂へ尚混沌たる事、昔日一糸を纏はざる時代と同一なり。

方今醫學日に進み、百病明かならざる者なく、爲に性慾に關する醫學的範圍の智識完全せりとは云へ、是が社會的方面に向つては尚幼稚なるを免かれずと云ふ可し。故に余は此處に性慾の社會的問題の中、所謂密賣淫婦に就て述べんと欲す。

新令發布以來私娼なる名稱は公娼なる名稱に相對峙して社會の一問題となり、其是非を論じ、其可否を議し、新聞雜誌は互に論議し遂に堂々たる府會會議上に提出せらるに至つては吾人啞然たらんとする所なり。然し乍ら、斯かる問題が世人の耳目を聳動せしめたる所以は如何に性慾なる者が深く暗々裡に人心を支配せるやを知るに足るもの也。

吾人惟らく、今にして此問題を爲政者が解決せざらんには、現日本國は、風俗日々に頽廢し、士氣益々沈下し、花柳病の蔓延は「レプラ」「肺結核」と相拮抗して底止する所を知らざるに至る可きなりと。故に吾人は此の憂慮と共に彼等の一部分私娼なる者に就て觀察せる一部を披歷して以て爲政者の一考を煩はさんとす。

(一)所謂私娼

私娼なる名物は公娼に相對して生ぜる新字にして、金錢の報酬を得て、密に自己の肉體を提供する者なり。此意味に於て私娼なる部類に屬す可き者は、藝妓は勿論、料理店、旅館、茶店、飲食店、活動寫眞、女給仕、女賣子等機會に依り、機微に從つて自己の意志に從つて肉體を異性に提供し得べき者皆然りとす。然し乍ら余の此處に所謂私娼と稱するは更に限局したる意味にして、或る一區劃内に雜居し以て風俗を壞亂する者を指す也。故に東京市に於ては淺草千束町、日本橋郡代、芝區神明町、小石川區指ヶ谷町、等是れなりとす。

其中最も模範的にして、其數の多大なるを實に淺草區千束町とす。此地は昔時尚蓁朧の地にして蛙鳴甚しかりし處、今や糸竹管絃の街となり、而して此處に此不可解の地獄を現出し來たれり噫時を追ふて脂粉の香益々濃厚となり、遂に當局者をして大英斷を起さずんば如何ともすべからざるに至れり。其大英斷以前に於ては戸數約七百余戸、其人數四千余を算したり。是徒の巣窟、割據して以て一代の榮華を貪れる、實に聖代の怪事と云ふ可し。今や其戸數を減し、其人數を少ふせりとは云へ、尚其孤塞に依つて以て、世の子女を毒せんとす、爲政者たる者善く是を糺す可きなり。

(二)私娼の年齡

余が淺草區千東町の私娼に就て觀察せる所に依るに私娼の年齡は種々なり。而て其最年少なるは十三歳の者ありき。然し乍ら、此等營業者は已に十歳前後より、養女なる名目の下に、子守に下女に又は使ひ歩るきに驅使して、其側ら、其營業法を見習はしめて以て十有三歳に至らば、世の好事者をして多額の價によつて其情操を破らしむる者なり。已に十六歳に至らば公然として接客せしめて其利得は總て自己の有とする也。斯く十歳前後より、此地に住まひ居る者有りと雖とも、其最も多きは十六歳より二十歳に至る者なり。其中最多なるは十七、八歳を峠とし二十歳に至りては其下行脚の上端にして、二十五歳二十六歳を下行脚の下端とす。然し乍ら尚四十有余歳の姥櫻にして其業に生活する底の者あるは寧ろ人世の悲哀を意味する者なり。

此私娼の年齡に就て吾人の見る所によるに、此等私娼なる者は、決して自分自ら、志して此處に至りし者に非らざるなり。普通社會の子女の、十六、七歳なる者は尚異性を知ると雖、進んで是れと接近するが如き事甚だ稀なる事なり。然し乍ら早熟兒として淫蕩なる者は例外なりとす。

(三)私娼の生活

一旦、此地に至るや、其生活の慘酷なる事、直視するに忍びざる者あり。世人目して私娼は自墮落度す可らずとす、然し乍ら、吾人の見る所に依るに、其自墮落は此等營業者に多くして私娼なる者は普通の下女よりも甚しく酷使せらるる者有る也。朝は遲くも九時頃より起床し、其雇婆の無き家に於ては、各自分擔して其家を淸涼し、又雇婆ある家と云へども、尚座敷の拭掃除、門前の淸淨等は三等私娼の成す業なり。其朝飯は則晝飯にして、且つ其炊事も又食器の仕末も皆之をなし、爲に其營業者は懷手据座して匙を以て口に入れらるゝを得る狀態なる也。

午後に於ては、彼等は髮結に醫者に又は活動寫眞に行くを許さるゝのみにして直に家に歸り其客を待つ也。

黃昏、百家を絡ふや、神燈は此天地を照らし、更に淸掃口切火をなし汐を諸所に盛つて家業の益々繁榮なる事を祈り、化粧千態、狸化して美人となつて以て遊野郞を待つ。

其夜の益々更くるに從ひ、客の往來織るが如き中を騷音は電光の如く走り、斯くして深更に至る也。營業主は其最後にあつて勤怠及客の取扱を監視して、以て何事の注意事情となす也、而して臥床し得るは午前三時又は四時に至るなり、新令發布以後は十二時以後の

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

營業は禁止せられしと云へども、傭客を待つ事は彼等の營業主の命令にして、早くも午前二時ならずんば臥得し能はざる也。

斯の如く、下女の役をなし、更に深更迄客を待つて、之に接し其精力を消磨し其體質を薄弱ならしむる事、之れより甚しきはなし。現時工場法案出で、其目的たるや就業者の保健を重んぜらる。然らば政府が行政の缺陷の爲に生じたる此等營業者の從業員の生活狀體を如何とするや。

斯かる生活により得たる金錢は如何なる者なりやと云ふに已に私娼の年齡に於て述べたるが如く、彼等の多くはほとんど年少者にして其契約は三年間の年期又は養女としての生活なるが爲に、彼等の肉體によつて得たるの金は皆悉く、營業者の所得となる也。然し乍ら其飲食、治療費、被服費等は主人持なりと云へども、所謂流行女ならずんば、此等の點に就て不自由を感ぜざらんとするも能はざる也。もし其家の多くの從業員の中、最も流行して千客萬來の星をさる子女は是ぞ其家の女王として、云ふ所聞かれざるなく、又營業主も、長く使はんとするが爲に、其意を向ひて、甘言以て是を慰謝する也。然し乍ら其他の者に至つては、客なしと云つては、悪罵せられ、衣服は木綿物の惡臭有る者に甘んぜざる可らず、其湯文字すら買ふ事も能はざるなり。而して客に依り得たる僅なる肉體の代價は悉く白眼の下に營業者の取る所となり、只髮結賃治療費のみを與へらるゝに過ぎず、故に彼等無智なる者は其治療費を買喰に費やして平然として自己の疾病の身を賊するを知らざる也。

年齡長じたる者に於ては四分六の定めなりと云へども、前借金を辨償し且つ被服費、化粧費を出さざるべらず、故に自己の肉體を以て虚榮の望を果す可きは彼等私娼に向つては百年河淸を待つと等しき也。

彼等の多くは營業主の與へたる衣服の紅黃白紫の彩に眩惑して其質の何んたるかを知らず、時に得たる金にて活動寫眞に遊びて唯一の誇となす、何ぞ其可憐なるや。然りと雖時に年少にして斯道の雑なる者なきにしも非らず、而しこは甚だ例外なる者とす、年漸く加はるに從つて自覺芽生して、自己の本能に從つて活動すると云へども、前述の如く彼等の多くは十六歳以上二十歳以下を最多とするを以て、自覺せりと云へども甚しく少數なり。年齡二十歳を超えたる者は營業者其美なる者には其慾望に其虛榮に、益々自縄自縛せしめて借金により永久に其家より脫し得ざるに至らしむ也。故に得たる金は右より左に散じ、身體は綾羅を絡ふて粧顏美なりと云へども、其心情は益々沈下して、遂には自己の肉體により得べき最大なる價値を以て、淚零止むる所を知らざるに至る也。

(四)私娼の疾病

千東町に於ける此等私娼の疾病狀態は大正元年、警視廳に於て檢黴所を此所に設けて以來漸次良好となりしと云へども、夫は表面的にして、其裏面に至つては昔時と大差なき者なり。

檢黴所の初め、有病者(此處に疾病と稱するは淋病、梅毒、軟性下疳なりとす)八十四%乃至八十五%なりき。爾來、日を重ねて統計表上良好に傾きて今日に至つては五十乃至六十%を算するに至れり、然し乍ら、實際に於ては昔時と大差なきは余の觀る所に依れば最高九〇%を算するに非ざるやと思ふ。如何となれば、檢梅所は彼等自身の自衞的の意味にして、更に法規的の者に非らざるが故なり。若し疾病の他に對して傳染毒の劇烈なる者なる時は之を洲崎病院に送り全治に至る迄入院せしむるが故に若し入院の曉には一家の收入上甚しき影響を受くるが故に彼等營業主は之を未然に防がんとし、其疾病の甚しき者は、檢査前に開業醫に診察せしめ、而も其意見を徵して若し入院の傾向あるさせば、何等かの名目の下に受診せしめず自家に於て治療せしむる也。故に檢梅所に於ける疾病は悉く程度低き者か、又は初期の者のみ也。

如斯、檢梅所有れども、彼等は入院せざる程度の者のみ雲集し、而て其太魚は常に逃し去るを以て、檢梅所なる者が自衞的なる名目を除去せざる限り、決して結果を良好ならしむる能はざる事は火を見るより明也

今若し九十%の割合に於て疾病有りとせば、此地に遊ぶ人員從業員一人に就て平均五人(極めて內端に見積りて)とする時は四千人に對し二萬人なり、而して其四千人の中の有病者、二千八百人に接す可き客數は、一萬四千人なりとす。此一萬四千人數悉く其病毒に傳染せずとは云へ少くとも、二人の割合として五千六百人は悉く病毒に傳染せし者とするも過當に非らざる者と信ず。一日五千六百人三十日にして十六萬八千人の延人數となるに至ては吃驚すべき事に非ずや。

梅毒と淋病とは共に亡國病なり、若し一日此疾病に罹りて其治療を誤る時には終世治せざるのみならず、其妻子を毒せしむる事、之より甚しきはなく妻は爲に不姙症を來たし、子女には羸弱なる體質を與へて一生の不幸、死を與へるの無慘なるに如かず。

現今醫術進みて、病にして治せざる者なしと云へども、是は一面金錢の豐にして、時間に餘裕有る人に向つてのみと云ふも、過言に非らず。中流、及下流の人士に於ては、病氣其者に對して終局迄の治療法を行ふ事能はず、殊に下流に於ては病怠らば直に生きる可き甚だ必要なるを以て、病は一進一退、年と共に進みて結局は肉體の頹退を以て終りとする也。

殊に梅毒、淋病に於ては再び立つ能はざるに至る底者少なく、たゞ梅毒に於て第三期に至り、脳脊髓を起したるの時、淋病に於て、尿道狹窄甚しく遂に尿閉を惹起せし時に至て其病症劇烈なるを除き、其他の時期に於ては、夫程苦痛を感ぜざるを以て、病症は漸に〱他の人に移行し止まる所を知らざる也。

從業員の疾病も斯の如く、營業者は、彼等の體の修繕終る迄待つ可き者に非らず、總ての營業者又は從業者の多くは疾病等は眼中に非らざる也。故に從業員にして其疾病中業を休むが如きは極めて稀にして、若し彼等の局部の疼痛殆ご去りたる時は最早疾病の治したる者として、醫門を潜る者なく只檢梅所有るが爲に治療を不止得續けるに過ぎず、故に私娼は其顧客と相待つて疾病の%數を向上せしめんとす、斯くして數年後の國家を如何とするや、吾人の杞憂は將に事實として現はれんとする也。(つゞく)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

人種問題と國民衛生

醫學博士 永井潜

□文化と國運とは逆行するか

人に百歳の壽を保ち、國に千歳の歴史を貽す例しは極めて少い、昔羅馬の榮えし彼の極みだも、ソロモンの榮華と同じであつた。例を遠く外國に採る迄もなく、我國の歴史上に於て彼の平家の公達の極りなき享樂の境も、何時しか人が死し國が衰微するやうに聽ては只一片の歴史の頁となり了つたのである。誰か此事に就て榮枯盛衰のきはまりなく、轉た無常の迅速を歎たざるを得やう。

或る有名なる社會學者の説く處に據れば『此社會は生物と同じ運命を持つて居る』といふ。啻に社會のみでなく一國の運命も矢張りさうあると思ふ。何故社會の文化が向上發達すれば國家が遂に滅亡の止むなきに至るであらうか、之れを謂ひ換ければ文化と國家は相共に並行して進歩發展する能はざるものなるか、之れ實に研究の價値ある大問題であつて、此問題を根本的に解決するを得ば、眞に國家人類の幸福は云ふ迄もない事であると謂はねばならぬ。

□人類進化の原則

元來我々人類の進化に就ては其根本に二つの方面がある。其一は我々が先祖傳來の大切なる贈物を富まし後世に之れを殘す所謂傳説的文化なるもの、卽ち文字に依つて我々の思想を歴史として後代に貽すやうな事であつて、他の一面は人間自身の心身の向上、之れを換言すれば生物的進歩である。

扨て其社會の文化と人類の生物的進歩とは如何なる關係を持つて居る者か、茲に私の研究する原因を發見した次第であつて、或者は社會が進歩すれば人類も隨て向上し、又或者は人類の向上は軈て社會の進歩と唱ふるれども、若し开が事實させば國家は何時も儼然としてつねに榮華の裡に發展して行くに違ひない筈である。然るに事實は時として世の文化と人の生物的進化とが並行せぬ許りか相食むの狀態を惹起する場合がある。若し倶く迄相並行し進行する時は、其國は優者の地位を持續し得るである譯なのに、何故か彼のギリシヤ、羅馬は、野蠻なるムーア人に滅ぼされ、平家の公達は牛車にさへ乘る事が出來なかつた、彼の東夷等の征服する處となつたのである。

右に反し生物的進化のみあつて、傳説的進化の之れに相伴はぬ場合に於ける民族は一體何うであらうか、今日の黑人の如く、亞弗利加若くは印度人の如く未開の民に止まらざるを

得ぬのである。故に傳説的文化と生物的進歩とは何時も並行して進む可く勵まなければならぬ。恰も車の車輛の如く鳥の兩翼のそれの如く兩々相俟つて進む處に眞の國家の隆盛を見るのである。

一體生物進化を永遠に保持するには、何が大切であらうか。生物學者等は之れに就き、ダーウィンの進化論に據つて代表された如に、其の最大原因は自然淘汰の然らしむる處なりと稱して居つたけれども、最近の生物學者は尙ほ之れに一つの大切なる者を加ふに至つた。それはユーゼニックスの問題である。從來の自然淘汰作用は、現に存在せる良種を貽すけれども、新しい立派な者を作る事は出來ない、そこで善良なる種子を殖やすといふ事に考へを致して來たのがユーゼニックスである。併し乍ら此問題と現代の文化とは果して相並行して進むを得るか、私は此點に就て二三の必要な問題に觸れて見たいと思ふのである。

□進化上より見たる戰爭

今度の歐洲大戰亂で云へば右の場合の影響が如何樣に及ぼされたか、之れは淘汰作用に最も關係が近い、卽ち善良なる者を立て惡を亡ぼす意義から見れば、昔の哲學者が說く處よりして大に價値がある事で、ギリシャのヘラクリースは『戰爭は凡てを生む母也』と謂つた程である。又平和論者として且つ穩健主義たる彼のカントさへ『人は平和を欲して歇まぬが、自然は人間よりも能くして戰爭を起す』と非常なる價値を認めて居る如く、此戰爭が歷史の頁に殘す處の大なる一であるは言ふ迄もない。

けれども斯く價値ある戰爭も文明の今日では、昔日のそれの如く一騎打ちの類ではない。民族と民族、若くは國家と國家の戰ひで、個人の力は全く忘れらるゝやうな感がある。何故なれば二十世紀の現代戰爭は凡百の事物皆悉く極めて精巧なる機械を利用し、其下に我々人類は動作を爲すが故に、强者弱者の別なく共に犧牲の厄に遭遇するの止むなきに至るのである。隨つて强者を立て弱者を亡ぼす自然淘汰の作用とは少し齟齬する傾があり、生物進化上には實に恐怖す可き事態であると謂はねばならない。殊に軍國主義の全國皆兵制度にあつては、之れが從軍其衝に當る可き士は、何れも國民中樞の最も優良なる壯丁のみである。何れの國何時の代にも弱者が國家に貢獻するの大事績をして後代に貽した事はない殊に國家の上から觀れば弱者は不生產的とも稱するを得るのに其者が國家を守り强者が可惜戰場に生命を失ふ如きは、何れの方面から考へても生物進化上怖る可き次第であると謂はねばならぬ。若し之等尊き强者の犧牲が死せずして結婚するとすれば、一千萬人は二代目に二千萬人を算し、五代に至れば一億萬の加も優種が殖える譯である。加之一面莫大なる經濟上の損失を蒙る次第で、今日聯合軍が一日に費消する金額は約一億萬圓以上に達するといふ、心身物質共に國家に取つての損失は實に筆紙に盡し難き程である。

□生物學的非戰論

斯く力量ある人が其力を發揮するを得ずして戰亂の犧牲と

なるは、人種繁殖上に大なる損失である。中樞となる可き人は何時の世に於ても極めて大切なる意義を充分負ふて居る者で早く結婚して而して早く兒を生むにやうにしたいのである。さらば國家は常に人種の優秀なるが故に、生物學上からも適當なる發展を來すは當然な事である、然るに之れに反し中樞たる壯丁が檢査に合格せる曉は、經濟上比較的豐裕なる地位に在る生物學上劣等である者が、國家に貽つて益々子孫を繁殖して行くが爲めに、茲に其弊害は如何ともする能はざるの狀態を示すのである。今日我國に於て徵兵に出づる割合を以て示せば、徵兵一に對し其他は一、〇三である、故に二十三代半を經過せば惡種は二倍に增加する譯で、之位生物學上の立場から淘汰に反する事はないのである。ユーゼニックス上から考へて實に怖ろしい次第であると謂はねばならぬ。

又軍隊には大なる弊害がある。それは軍隊と花柳病との關係も密接なる事である。壯丁が故鄕其他にあつては比較的花柳病等の關係が左程でもないのに、一度軍隊に足を踏み込めば、其處には怖る可き花柳病の厄に遭ふのであつて、米國の如きは入營前が十萬人に對し僅かに三十二人であるに、入營後の幾日後には十萬人に付き千人の多きを算すといふ。英國人種學者のクスー氏は『軍隊は最も怖る可き花柳病の培養器である』と迄稱へてゐる。最も茲には種々の事情が相連關し潜伏して居るではあらうけれども、何にせよ國家の中樞人物が斯くも多くの花柳病の厄に遇ひ遂に優秀なる子孫を貽す事の出來なくなるといふ事から考へても、如何に軍隊其物が生物學上に於ける進化に大なる惡影響を及ぼしてゐると云へるのであつて、此點は特に軍務衞生當局の一考を要する處である。

□進化と質量の問題

次には人口問題で、此事は何より極めて重大である。而して此問題の根本には數と質との二つの考へがあつて、其一は數を多くする事、卽ち何でも關はず無暗矢鱈に數さへ增せばそれで可いといふ主義である。けれども其主義も皆其數に於て優秀であるなれば甚だ喜ぶ可きであるが、若し劣等であつたなら寧ろ殖えぬ方が適いのである。茲に質の問題が起つて來る譯で、民族の繁殖率を增して優劣を頓着せぬか又善良なる民族のみを貽す樣にするかは極めて重要なる問題である。

一體世の文明は其域に進むに從ひ人口が減じて行く傾向がある。我々は歷史上に於て、又現在に於ても其の理由は廣く知られて居る故、私は此事に就て、諄々しく述べる必要がないと思ふから省略する。而して人口が減る割合に劣等人種が益々殖えて行くのである。此傾向を示す原因に遡れば其處には、人間の贅澤、過勞、アルコール中毒、花柳病等我々生殖機關の細胞を害ふ類が多いと同時に、人爲的に避姙法を行つたり、又は受姙を嫌ふこと丶、其上經濟上の關係は婦人が勞働其他の事務を掌るに至るの止むなき事情とより、人種は益々劣等となるに至るのである。之れを囚徒の數から觀ても米國に於ける割合は、一八五〇年に於ける總人口二千三百萬人に對し四徒六千七百三十七人、又一九〇四年總人口八千萬人に對し四徒總數十萬人以上に上つたといふ事實から見ても

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

漸次劣等人種の繁殖して行く證左は瞭然たる者がある。卽ち一八五〇年には千人に對し〇、二九なるに一九〇四年には一、二五といふ殆ど四倍以上五倍近く增加した次第である。又殺人犯者も一八八五年より同九年に至る五ケ年間には人口百萬に對し三八、五なるに、一九〇二年より同六年に至る五ケ年間には百萬に對し一一八、〇の多きに達して居るのである。之等犯罪の原因は前述の文明に伴ふ種々の缺陷的現象たるは謂ふ迄もない。其他にも精神病者又は自殺より起る者幼年犯罪者等の增加は算へ來る遑なき程である。

□生產率の階級別

然らば何故に文化と共に善良なる種が少くなつて行くかといふ議論に遷つて來るが、世が文明に進むに從ひ知識階級の人達は、皆生活に就て出來得る限りの思慮を廻らすの餘り、有らん限りの能力を發揮し、一角の事業を遂行せんものと爲すが爲め其處に勢ひ晚婚の弊が生ずるのである。晚婚はいふ迄もなく生殖力の旺盛な時期を經過しての結婚であるが故に、自然子供の數が少くなるので、又其他に生活上の都合から產兒を制限して居る者もあるが、之等は相共に社會の事情如何に止むを得ずとするも國家百年の計から考へ來れば、寔に嘆かはしき次第であると謂はねばならぬ。

今茲に其文明の弊害の證據ともなる可き事實を示さんに、貧者と富者との生產率を揭れば、曩にロンドン會議に於て獨逸學者のチヤールス、フーツ氏の調査では生產率千人に對し

一、貧窮にして殆ど其日暮しの者	一四七人
一、其日暮しとは謂へ幾分餘裕のある者	一四〇人
一、下流としては先づ相當の者	一〇七人
一、中流と見做す者	一〇七人
一、中流以上に富む者	八七人
一、上流社會に位する富者	六三人

といふ割合で富者より貧者は其率非常に高い割合を示して居る。又佛蘭西の巴里に於ける會議に、ベルチオン氏が發表した處に依れば

一、最下級	一〇二人
一、下級	九五人
一、下級にても稍中流	七二人
一、中流	六五人
一、中流以上上流の次に位する者	九三人
一、上流	三四人

といふ事實を示して居る。此二つの事實から觀ても智識階級と觀る可き上中流者は人工的に避妊するか又は生殖力の乏しい所謂劣種なのである。

□文明と結婚の壓迫

次は晚婚に就ての統計を示せば、先づ順序として我國現在の各從事業者が如何なる民族に於て結婚を爲すかを揭げんに結婚人千人に對し

職業別	年齢
職夫	二四、〇六
織物業者	二四、三八
製本職並に鍛錬業者	二四、九二
手工	二五、三五
日傭業	一五、五六

商人	二六、二五
商店主	二六、六七
農夫	二九、二三
自由業者	三一、二二

であるが、之れは一定の推定には到底行かぬ。何故かなれば右の内の大半は經濟上の關係に依つて結婚の割合も幾分變ると見做さなければならぬから先づ大體に於て如斯割合を觀るので、自由業者の最も晩婚なるは其根本に經濟上の關係が極めて重要なる點となつて居ると思ふ、次は結婚年齡を男女互に千分比例にて示せば

年號	年齡、二〇―二五	二五―三〇	三〇―三五
明治卅二年	三七、二八	二八、四一	一二、八〇
同四十四年	三一、三三	三三、〇八	一五、二六
	年齡、一五―二〇	二〇―二五	二五―三〇
明治三十二年	三三、六五	四一、七〇	一四、一四
同四十四年	二七、七三	四一、六七	一六、五八

斯く年々歳々晩婚の傾向は男女共增加して行くのである。之れが驟て激しくなつて來た時には、人口が殖えなくなるので、晩婚の弊は何れの方面から觀ても嘆かはしき次第であると謂はねばならぬ、如何に生存競爭の激烈とは申せ如斯現象の顯はれ來つた事は不祥事と申す外はない。加之尚其上避姙を爲す者が多くなつて來る事である、殊に知識階級に於ては巧に之れを行つて乃れの代の享樂を專にせんとする傾向は生物進化上如何とも解釋する能はざる者であると思ふ。

□恐る可き避姙の流行

斯く種々なる統計上から現はれて來る、凡ての社會生物學上に反するのみで之れが增上するに從ひ、國家民族の前途に暗雲の漂ふは必然であると考へられるのである。而して目下最も一の流行とも稱せらるゝは其内で怖る可き避姙である。避姙は民族の種を害する事に就て英國の有名なる生物學者のピヤリン氏は日く子は初めから三番繼位は餘り價値が少ない」といふて結核、精神病が初めの子程冒され易いといふ統計を示して居る。所が避姙は大概、恰度優良なる子供の生れる場合の頃施すが故に、自然優種が拐し取れ、惡種のみが漸次增殖して行くといふ現象になつて行くので、尙其上婦女子の勞働は總て其自身の受胎や又は授乳等が少くなるので、勢ひ人種の上に惡影響を及ぼす事となるのである。世には子は牛乳にて育つ可き性質の爲だと考へる人がある。併し自然から云つても母の乳に優つた事はないのであるから、良い加減な事を眞に受けて折角の善事をも放擲し遣つて惡い方面を取つて以て爲すやうな事はせぬやうにしたい。然らば生物學上適當した處置に出でゝ益々人種の改善は報ぜらるゝのである。（未完）

□（三）集く日□

▲**内閣統計官横山雅男氏曰く**　近來我國でも社會一般が、婦人問題に意を用ふる様になつた。併し歐米から比較すると倘時機遲れの憾がある。其原因は今だに婦人が覺醒せぬ様な狀態だから仕方がない。日本の婦人は男に引摺られて行くのであつて、婦人自ら奮發するのではない。甚だ心細い次第である、之等は要するに婦人の外部活動が餘り宜しからぬ結果であらう。何處迄も女らしくといふ内輪主義が其主なる原因で例を犯罪數に取り歐米各國に比較してもすぐ判る。佛蘭西杯では犯罪總數の四割を婦人が占めて居る。顧つて我國の婦人は一割にも足らない美點を有して居て、世界の文明諸國中婦人犯罪數の最少たるもので、教育家は是非共此美點を保存する樣に充分努めて貰ひたい。

▲**三輪田女學校長三輪田元道氏曰く**　日本婦人の犯罪數の少ない事は非常に喜ばしいが、又一面に於ては婦人は眠つて居るといふ裏書をする者だと思ふ。我國の婦人も歐米のそれの如く矢張犯罪數が多くなるやうになつて來なければ眞に婦人の發達向上は六ケしい。

▲**婦人問題研究家高野重三氏曰く**　だから歐米婦人の如く男子同樣の活動を爲しても犯罪數が多くならぬやうに教育して貰ひたいのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

最近の廓清運動

江南

□岡田警視總監訪問

舊臘三十日品川遊廓中十二月燒失したるにつき、之が再興願に對する當局の方針を聴取し、本會の意見を陳述せんが爲め、一月六日余は岡田警視總監を其官邸に訪問した。總監は先づ來意を問ふて後「雜誌に御發表になりますなら其積りでお話しますし、廓清會としてお出でなつたなら充分に打解けてお話しも出來ますが」と巧みに筆を封じ、懇談三十餘分にして立歸つた。されば余は德義を守りて其の内容を會員諸君に公報するを得ないが、余の述べた意見を略叙すれば、遊廓其物が既に公に存すべきでないのに、新宿品川の如き帝都の關門に大道を挾んで堂々醜業の行はれるといふ事は、野蠻極まる事で、恐らく存娼論者としても移轉の必要を感じない者はないと思ふ。されば品川が十二軒にしても燒失したのを機會に、營業權を消滅せしむるかそれが出來ない迄にもせめて洲崎の如き廓になつてゐる場所に轉ぜしむるべきであるとの意味を敷衍し、總監の打解けたる意見方針等を承はり、更に余は廓清會は不可能な空論を叫んでゐるのではないとて簡單に廢娼論を述べ、岡田氏は片山博士の改良論の話などをせられ「廓清會のお働きに就ては主義としては元より結構な事で、且つ實際問題の如きは關係する處が廣くして深く、我々の知らない事が澤山貴會に於ては研究されて居るであらうから、其内緩り御高見を承はり度い」との事であつたから、余は總監及保安部長等と本會と非公式の懇談會を開き、互に意志を疎通して我國の風敎の爲めに盡したいと述べて歸る。

□新年懇親會

同日午後五時、神田淡路町多賀羅亭に於て新年懇談會を開く、出席者

島田三郎、矢島楫子、安部磯雄、山室軍平、宮田脩、三田谷啓、福島四郎、井上胤文、河合篤叙、守屋東子、安中花子、山本邦之助、岸夫人、高岩義政、坂本正雄、伊藤富士雄、日疋信亮、田中某氏、松井周吉、疋田保一、益富政助、石塚綱茂、伊藤秀吉

の諸氏にして、開會に先ち懇談席上に於て余は警視總監訪問の結果を述べ、七時晩餐に移り、デサトコースに入るや益富政助氏は起つて一場の挨拶をなし、品川遊廓善後策に就き諸氏の意見を述べられん事を望み、更に本年三四月の交を期して廓清會本年度總會を大々的に大阪に開きたしとて、其執行方法を略述し贊同を求め、島田三郎氏次に立つて、品川問題は當面の急務なるが故に直に進んで解決の道を講ずる事、其手段として既に伊藤君によりて橋渡しをせられたのを幸とし會見の實行を近日中に行ふ可し、それに就きて山室氏本會を代表して其日時等當局との協議あらん事を望む　總會の件は事甚だ重大にして且つ時日あり唐突の事故理事會の論題としたしと述べ、安部磯雄氏は本年度事業としてはトクラト傳道を盛にしたしとて、更に軍隊の風紀取締につき所感を述べ、次に山室軍平氏は品川問題より救世軍の社會事業に及び、矢島楫子氏は廓清會が立派に發育して來たからもう私も隱居してよいと笑ひ、守屋東子氏は矯風會の貞操問題講演會の現狀より公娼廢止運動資金(五錢袋)四百圓に達したれば最も有効に使用したしと述べ、宮田脩氏は花柳病の惡るべきを普く知らしむるの急務なるを説き、更に四百圓の費途に就て意見を述べ、井上胤文氏は善をなすに大膽なれとて大氣焔を吐き、高岩義政氏は根本より現代人心の腐敗を清むべしと論じ、疋田保一氏は南洋醜業婦の實狀を述べ、三田谷啓氏は兒童虐待に就て面白き實話をせられ、九時半散會、近來稀れに見る内容豐かなる集會であつた。

□保安部長と會見

八日、山室軍平氏は新年懇親會席上の協議をもたらして警視廳訪問、總監不在の爲め丸山保安部長に面會來意を告げ、丸山氏は快諾して總監の諾否を問ふて回答する事となり、且つ自分は近日中に戰時行政視察として海外に派遣せらるゝ事となり、今明日中に後任保安部長の發表を見る筈につき、後任者を加へて三人にてお目にかゝる事業にしては如何との事に、それは元より我等の望む處なりと答へ、四宿に對する意見を交換して引取つた。

□警視廳との會見

十六日午後二時、丸山氏の斡旋によりて愈々會見する事となり、本部よりは島田三郎、安部磯雄、矢島楫子、山室軍平、益富政助、伊藤秀吉の諸氏に、井深花子、久布白落實子の二氏を加へ、總監室にて岡田總監は小幡保安部長と共に應接し先づ島田會長來訪の理由を述べて挨拶をなし、丸山氏の私娼撲滅に對する勞を謝し、差當りの問題として品川新宿等の處置に就て意見を述べ、安部氏は藝妓の取締に就て山室氏は自由廢業に就て各希望を述べ、更に島田氏は細見の發賣を禁ずべき事、廓内に夜櫻燈籠等の催しを禁じ、酉の市の弊害等を語つて其の禁止を求め、懇談一時間餘にして最後に益富氏謝辭を述べて退出し、玄關口に於て遅れ來れる丸山氏に挨拶を交換して立歸つた。此會見も秘密會といふ總監の要求を容れて發表を見合す事としたが、要するに良好なる刺戟を與へ得たであらう。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

殉教者の勇と鼠小僧の情

救世軍書記長官
廓清會評議員
山室軍平

□奴隷解放運動者の意氣

▲飛田遊廓の問題が初まつて以來、大阪の有志の方々が、あらゆる手段を盡して主義の爲めに撤廢を期して奮鬪せられたことは、心から稱讃感謝する處である。

▲米國のウイリアム・ロイド・ガリソンといふ人は、身を挺して奴隷廢止問題の爲めに奔走し牢獄に繫がれても倘屈せず、遂に輿論を喚起して彼の大戰爭をすら見るに至つたが、彼は常に此問題に對して「妻が强姦されてゐるのを見て、其夫によい加減に吃驚して置けといふ冷淡な人はない。同胞兄弟等が忍ぶ可からざる凌辱を蒙つてゐるのであるから、我等は戰はなくてはならぬ。全力を盡して彼等の救濟の爲めに戰はねばならぬ」と云つた。我等が飛田遊廓設置に反對するに就てもまた、米國に於る彼等と同樣の意氣精神を以て最後迄戰はなくてはならぬ。我等は決してほど〳〵に歇いて居つてならない。

▲如何に人倫を蔑視した泥水商賣の女郎屋でも善惡を辨まへる位の良心はある。私が救世軍士官として傳道して居つた時に、或る貸座敷の主人がやつて來て、「私はどうしても自分に克つ事が出來ない。特に異性に對する欲望に克てない」と云つて頻りと懺悔めいたことを云つてゐたので私は種々と宗敎上の忠告を與へたことがあつたが、其翌年の正月に東京ホテルで東京市の實業家の會合があつた。其時に一人が立つて「種々と協議すべき事もあるが、自分の特に提議したいのは、東京市の實業家の團體は、本年中如何なる會合に於ても藝妓を弄び或は之に戯れないといふ事にしたいものである」と云ふたので、多くの實業家は赤面したといふ事である。而して其の提議したといふ人の姓名が私の心覺えにあるらしいので良く調べて見ると、いつぞや私の所へ來て自分に克てないと懺悔してゐた貸座敷の主人であつたのである。

▲大阪でも良く似た話がある。其の人には折々出會うが元は京都の祇園でやはり貸座敷業をやつて三四十人の藝娼妓を抱へてゐる大茶屋の亭主であつて、妾の二三人も蓄へ、男であり乍ら七百圓からする飾をつけて歩くといふ道樂者であつた。或時慾と道伴れで北野の天滿宮に參詣しやうと思つて京都の町を歩いてゐると演說會があるらしいので、好奇心に驅られて這入つて見ると一人の紳士が立つて熱心に演說して居る。其人は故新島先生であつて、先生が國禁を犯して國に盡された所以を說いて居られた處であつた。が端なくも此の貪慾非道の貸座敷業者も非常に心を打たれて感激領悟迷夢が醒めた心地になつて演說が終つても感激の餘茫然として立去る事が出來なかつた。新島先生は靜に亭主の傍に來りて「貴君のお住居は何處ですか」と問はれた。彼はハッとして恥しさに眞實を告げ得ずして良い加減に答へて其場を立歸つたが、一度無明の夢より醒めた心には切實な先生の獎勵を忘るゝことが出來ず遂に飜然改悔するに至つた。彼は一切の利害の觀念を離れて、三四十名も居る藝娼妓を悉く其身元に返し、自分も廢業して人らしい道を步まうとした。併し天は彼れに懲らしめを與へ給ふた。或る日のこと泥棒が這入て目ぼしい物を盜んで行つた。彼は斯くて非常な困窮に陷つた、けれども最早彼の心には奪ふべからざる慰めがあつた。彼は歎くこともなくして牛乳配達とまでなつて屈せず撓まず働いた。天は自ら助くる者を助く。遂に彼は成功して今では一家族正しき業を營んで幸福に暮して居る。

□飛んだ神樣も殊勝から

▲或人はまた藝娼妓等になつて泥水稼業をして居る者は、眼に觸るゝもの耳に入る者惡い事づくめの生活で、箸にも棒に

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

もかゝらぬ仕樣のない墮落者ばかりの樣に考へるが、決してさうではない。中には厭々ながら心ならずも行つて居る者が少くない、救世軍で今日迄約千五六百名の不幸な婦人連を世話したが、其中の一二の例をお話して見やう。

私が京都に行くと屹度大急ぎで面會に來てくれる老婆樣がある。いつも大騒ぎをして喜んでくれるが此れには滑稽な物語がある。彼れに一人の娘があつて、京都で娼妓をして居つたが、廢業の志切なるものがあつて、遂に東京の婦人ホームへ行きたいとの考へから、或夜窃に抜け出して汽車に乘り近江の彦根迄行つたが、それから先の賃銀がないので彦根からは着てゐる着物を一枚一枚と賣つて、漸くにして東京迄歩いて來た。そこで救世軍では救助して廢業をせしめたが、此娘が娼妓となつたには止むを得ない理由があつたのである。其後東京の下谷に住つて居つたが、毎朝必ず芝の方を望んで――救世軍が芝にあつたから――拍手を打つて拜んで居つたさうである。此娘は緣あつて或車屋の親分に嫁し、幸福な家庭の主婦として此と共に居る。私が京都へ行くと面會にやつて來る理由は此れなのであるが、此老婆は全くの無學でブース大將と誰れかに書いて貰つて神棚にお祭したり、當時我が救世軍の中校といふ地位にあつたので中校●●●忠孝と書いて神棚に上げて娘の助かつた記念として拜んでゐる。それのみでも物足らぬのか、毎朝其前にお水を上げるといふ始末である。折節は近所隣りの人がオコリをした時とやらそのお水を飲ませたら芽出度全快したさうである。實に困つた話でそんな馬鹿々々しい事は止めて貰ひたいといふが、御當人は眞剣になつて居つて更に分らない。

□救はれたる者の潔さ

▲自分の娘を食ひ物にして左團扇で暮すといふ大それた根性の者ばかりではなく此の樣な正直な人が、或る誘惑からこんな事になつた例も少くはない。泥水の中にも蓮のやうな健氣なしほらしい娼妓もゐる。或る時に救世軍へ一人の婦人が來た。どうも素人らしくないので問ふて見ると娼妓で廓を抜け出して來たのであつた。廢業して心から悔改め正しい心になつて其後或人に嫁いだが、其の近所の若者の中に以前泥水稼業をして居る時に、馴染であつた人があつた、時々來ては淫りなことをいふのであつたが、或日其の男は其の婦人が洗濯をしてゐる所へ酒徳利を携へてやつて來て、昔馴染にお酌をしてくれと云つて、堅氣な人妻になつて居る者を、娼妓であつた時と同じやうに戲れやうとした。併し婦人は立派に救はれて居つたから、昔は一度は厭らしい娼賣をして居りましたが、緣あつて當家に嫁いで、神樣から與へられた大切な夫がありますから左樣なお對手は一切お斷り申します、ときつぱり拒絶して了つた。すると男は、それならば暫時此の部屋を借りて一ぷくさして貰つて昔話でもしやうと、しつこくも婦人の昔を喚び起さうとした。そこで婦人は、私は娼妓をして居る時に澤山の男子の方に會ひましたが、その人々が斯くも淺ましい慾を貪つて女をなぶりに來るといふのも皆お酒のさせる事と思ひました。酒は實に禍の根でありますから、左樣な事に清い部屋をお貸し申す譯には參りませぬ。又救世軍の誓約にも堅く酒を戒めておりますから、どんなに仰つてもいけません。と以前と打つて變つた儼然たる態度に、さしもの道樂者も赤面して歸つたといふことである。眞實に救はれた者は如何に卑しい事をして居つても、こんな純潔な美しい心になるのである。

□習慣の怖しさ

▲併し茲に注意を要するは、私共が凡ての事に當つて最も初めに感ずる第一

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

印象は、最も正確なる判斷たる事である。イソップ物語の中にある例話で云へば、

▲或る家主がお隣りの家を人に貸した處が、それは思ひもよらぬ軟革師であつて、毎日々々臭氣紛々として食物も咽喉へ通り兼ぬる程の、厭な臭ひに攻められた。それで家主は堪へ兼ねて軟革師を追出さうとした。處が軟革師がいふには、宜敷いそれならば轉宅しませうから、家を探す迄待つてくれとの事であつた。家主は尤もと移轉の日を今かくと待つてゐましたが、軟革師は一向に移轉しさうにも見へないし、家を探してゐる樣子もない。さう斯うする内に段々日は經つた。すると近所の者は初めに臭いくと嫌つた皮の香に馴れてしまつて、何時の間にか喧しい小言をいはない樣になつたといふ事である。

▲それと同じく私共は飛田遊廓の設置が公表せられた時には如何にも重大問題として驚き、社會の輿論も沸騰したが、之は家主が軟革の臭氣を嫌つた樣に、社會に毒氣を流す者を排斥する正當の聲であつたが、所謂人の噂も七十五日で、漸次毒に馴れ臭ひに熟して其の醜惡を感じなくなるものである。されば我等はどうしても、此の第一印象が馴れて消え失せない内に排斥せなければならないと思ふ。

□呪ひの聲を何と聞くや

▲後藤男が内務大臣に就任された時大阪の有志が飛田問題の陳情をせられると聞いて私も内相に會見を申込んで所感を述べましたが、其時内相は『政黨員が儲ける爲めにした藝だよ』と云はれた。慧眼なる後藤男は早くも這箇の消息を照破して居られるのであつた。私は政黨に就て其の事情は知らないから、内相の云はれたやうに政黨員が儲けるか誰の腹を肥すのか知らないけれども、苟も社會を毒して市民の反對するものを三四の私腹の爲めに犧牲とするといふ事は、あまりに府當事者の秕政に驚かされるのである。

▲一體世の中に儲けるとかいふ事は、骨折り賃であつて、社會に害毒を流す骨折り賃に社會が報酬の黃金を與ふるといふ事は餘り聞えない話である。昔の書物には、或人が商賣人と屏風とは曲らなければ立てないと云つたさうであるが、其夜屏風が枕元に立つて、私は眞直な仲間と聯合して立つて居るので、立つ可き處に立たないで、少しでも曲つたなら忽ち倒れてしまひます。と云つたさうである。

▲歐洲戰爭が始まつて以來、外國から大變な註文が日本に來る、すると後先のみに心のある鉛筆が行つたり、糊づけした靴が行つなりするといふ。こんな商賣人は儲けるといふよりは人の金を盜んでゐるといふが適當である。併し斯樣な人が表面に知れると社會は相當の攻擊を加へるが、人の最も尊重すべき大切なる貞操を盜んで之を儲ける多くの男のある事を責めない。

『天路歷程』といふ書物を書いたジョン・バンヤンが云つた、地獄の火に陷る事が最も苦しい事であらうが、或は刀によつて斬らるゝ事が最も恐しい事であらうか、いやさうではない、私共の一番苦しい一番恐ろしいと思ふことは、自分と同じく地獄に陷つて居る人々から、之れもお前が私を欺した爲めであるといふ、怨みと呪ひの聲を聞く事である。と。飛田遊廓が出來て多くの男子が人の道を誤り社會に信義を失ひ、やがて地獄の火に投げ入れられん時、他日當路者に『之れもお前の爲めだ』と呪ひの悲鳴を擧ぐるのを當路者は果して聽く事ないであらうか

□寶を天に積む喜び

▲福井縣にさる酒造家があつた。粟を以て酒を釀造る事を發見し非常にお金を儲けた。然るに當時附近では特種の腦病が起つて死する者相次ぎ、醫師は其の何故たるかを知らなかつた。處が死者の主なる者は飲酒家であつたから、醫師は試みに病人にお前は粟酒を飲んだかと尋ねて見ると、皆異口同音に粟酒を飲んだ者

であつた。これを聽いて彼の酒屋は非常に心を痛めて煩悶して居つた。折しも或人から「平民の福音」といふ書物と「聖書」を貰つたのでそれを携へて、苦悶を免れに温泉に行つて靜かに考へたが、どうしても粟酒の製造を廢止せなければ自ら安心が出來ない事を悟り、遂に歸つて斷然其の製造を止めて新しく醬油の製造業に改業した。所が馴れぬこと〻て非常に失敗して、家財を空しうし苦境に陷つて東京に來り、私に身の振り方を相談に參つた。其時に私は主義を守る爲めに失敗した事は誠に尊い美しい事である。主義の爲めならば之れ實に光榮である、大に苦しみ給へ、私共も信ずる所の爲めに斃る〻迄戰ひませう、不義の榮を得るよりも義の爲めに苦しむは神の前に大なる富である。君、神の爲めに死ぬならば死に給へ、と大に決心を促したのであつた。それから彼は愈々發奮して努力して居つたが、遂に神は彼を棄て給はずして良き働きを與へ給ふて、一家繁昌してゐる。

▲難波新地は火災によつて失業者が出來たが、遊廓は如何なる方面から見ても社會を害する事明白で、これを商賣として居る貸座敷業者が天災によつて失業したならば、よろしく正業を與へて救濟すべきであつた。之れに再び醜業を授けんとするは亂暴なる措置といふ外はない。

□悔改の勇氣を振起せ

▲東北に於て某驛の助役が執務中酒を飮んでゐた爲め、責任を怠り列車大衝突の不祥事を起して、幾十人の生命を奪つた。國民は此の報道を聞いて愕然として恐れ交通機關に對して大なる不安を感ずるに至つた。然るに大阪市に於ては二萬幾千坪の大なる陷穽を設けて、幾千幾萬の前途ある靑年を此の地獄の穴に陷れんとしてゐるのに對して輿論が同じく沸騰してゐるが、前者は其の責任を明かにし助役は自ら其罪を切感して悔悛の餘り氣が狂つたといふ事であるのに、大阪府の當局は未だ明白火よりも炳なる罪を悟らないのであるか、悟つて尚悔ゐざるのであるか、平然として撤廢陳謝の道を採らうとする模樣がないのは、其の良心の叫び其の道德心は東北椿事の一助役だにも劣る者と云はなくてはならぬ。

▲昔英國に或る熱心な宗教家があつた國教問題で自己の信ずる信仰を改めなければならぬ事になつた。多くの人は或は信仰の爲めに殉教の死を喜びとなして從容死に就き、或は眼前に現はれたる怖ろしき死の光景に戰いて、主義を棄て信仰を改めて節を屈する者もあつた。而して運命の手は亦彼に迫まつた。彼は餘りの恐ろしさに堪へず妻子愛着の情にほだされて改宗の誓文に捺印して了つた。斯くして彼は恐ろしき場面より脫れ生を全うする事が出來たけれども、良心の苛責は胸に針を刺して煩悶懊惱するに至らしめた。彼は節を屈して生命を全うし良心の壓迫に苦しむよりも、寧ろ殉教の死を遂げて天國に至らん事を希ふに至つた。遂に決然として立ち、過ちを改めて自ら訴へ出でた。其態度は實に秋霜烈日の如き慨があつた。

▲彼は多くの同信の徒の如く處刑場に送られた。彼の前には暫時の後に彼の肉體を燒かんとする火焰が凄まじき勢を以て燃へて居る。彼は一思ひに火の中に投ぜらる〻前に役人に向つて云つた。私を燒く前に私の此の右の手は卑怯にも不義のサインをする爲めにペンを持つたのであるから、先づ全身燒かる〻前に此手を燒いて頂きたい。と云つて自らの右手を火の中に延べて燒け爛れる迄投じてゐた。

▲斯くて餘りの苦しさに堪へやらず全身を躍らして猛火の中に投じ、勇しき殉敎の死を遂げたといふ。飛田遊廓てふ不義無道の陷穽を作る事に贊成せられたる諸君は、よろしく悔悟反省自ら片腕を火に投じて、其罪を天下に謝す可きであるまいか。

□鼠小僧にだも劣るか

諸君にして若し女々しくも夫れは宗教家の態度である、其麼眞似は出來ないといふならば、私は此處に今少し眞似し易い例を示さう。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

昔鼠小僧の次郎吉といふ大盗賊があつた。或る時江戸の町を歩いてゐると店の前に澤山の酒樽を積んで、景氣よく開店祝をしてゐる店がある、澤山賣れてゐる樣子を眺めた治郎吉は首肯いて立去つたが、其夜店の者が一日疲れて熟睡してゐるのを窺つて忍び入り、在金全部を盗み出して了つた。翌日何喰はぬ顔して今日の景氣はどうかとぶらり來て見ると、どうしたものか昨日の賑ひに引換へ、店を閉ぢて森閑としてゐる。はて不思議の事よと素知らぬ顔で近所の者にどうした事かと尋ねて見ると、近所の者は如何にも氣の毒さうな顔をして「此店は親類から金を出して貰つて漸く昨日開店したのであつたが、運の惡い事には昨晩泥棒が這入つて賣上から元金一切盗んで行かれたので、今日から忽ち開店する事が出來なくなつた。親類の者は之れも皆本人のだらしない處から起きた事だと云つて、もう資本を出して呉れないのみならず、散々小言をいつて今しがた歸つたばかりでほんさうにお氣の毒な事です」と云つた。密かに戸の隙間ら家の中を覗いて見ると、なる程昨日晴々しい希望に充ちた顔をして立働いてゐた夫婦が、抱き合つてさめ〲と身の不遇を歎いてゐるのである。之を見た鼠小僧といふ惡徒の胸にも悔悟の叫びは起つた。其夜再び密かに忍入つて前夜盗み取つたお金に幾何かの利子迄添へて返したといふ事である。

飛田遊廓は幾千幾萬の子女をして其肉を腐らしめ其靈を地獄に陷れる弊である。府理事者及び大阪市府の職員諸氏よ、諸君に些かの良心の叫びがあるならば、英國宗敎家の殉敎の勇なくもせめて鼠小僧の治郎吉が酒屋夫婦の歎く處に悔ひ改めた丈の道德心は振ひ起して貰いたいものである。

婦人の貞操

青山女學院敎授 塚本はま子

貞操を說くに先立つて、先づ人間の使命と云ふ事を考へなければなりません。人は自ら善くなつて而して他をも善くしなければならぬものであります。即ち他から善くされるのでなく、自分で善くなつて行かればならぬものであります。人は銘々左樣ある可ものとしておいて、扨貞操は果して必要なものであらうかと云ふ事に就いて考へて見度いと思ひます。

例へば之を外面的にして見ると、低級社會の人は皮膚が汚なくても、爪が延びて居てもさう氣にかけない。けれども、智識階級の人は非常に之を嫌ひます。それと同じ如に野蠻國には不必要かも知れぬが、苟も文明人と人も許し他も許して居ります以上は、內面的の此の貞操が要不要であるかは素より言ふまでもありません。

結婚は、勿論生理的と云い事も含まれて居るが、それを道德的見解から取扱はないと間違ひが出來るのであります人間が僅か一人か二人ならばよいが、社會の一員として棲息する以上、道德的結合に依つたのでなければ社會の秩序を亂す事になります。結婚の目的が生理的にのみ在るものならば、それは人生の奥底にある貴いものが失はれて、動物と少しも選む處のないものになつて來る。高い人格を有つた個體と個體が眞に一致したものでなければ其處に眞の同情も眞の理解も眞の愛も湧かない。

然らば獨身者に貞操は要らないか。若し茲に獨身の婦人が道德的結合に依らずして一異性に心身を任せた場合、それは自分を善くし他を善くすると云ふ使命を忘れ果てたものであつて、道德上最も低い階級の婦人と云はなければならぬ。今迄日本の歷史上又習慣上、女性が引かるゝ儘に男性に身を任した場合、社會は之を責るに女性にのみ嚴肅で男子には至つて寬大である。然し私は女性として婦人にのみ峻嚴な制裁を加へ樣とする社會の鞭を悅んで受ける。それは男子よりも女子の方がより高いものと社會は認めて居るのだらうから。然し男子には自由な代りに責任がある。若し婦人の貞操を取るものがあれば其は道德上の掠奪者であつて道德的見解から見ば非常な低級者に屬する。（婦人矯風會講演大意）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

貞操を汚された二人の女

白根青葉

ある秋の夕方一人の織物工女が主人の家を逃げ出して何處へ行くともなく、さまやふて居た。日が暮れて彼女は或る商店の軒下にあつた荷車の上に寢てゐた。これを或る青年が見つけ出して救世軍の士官の許へつれて來た、無學な其女は始めは救世軍の士官を巡査と思ふて、あまり語らなかつたが、それからそれへと士官は尋ねた。そこで彼女は身上の事情を打明けた。生國は、銅山で名高いA町で、名はK、年は廿二才である。

幼少の頃から絹織物の産地であるK町に來て機業家に奉公をしてゐた。毎日朝は早くより、夜はおそくまで、勞働をなして奴隷の樣な生活をしてゐた。その後、事情があつて、A町の實家に歸り家事の手傳をしてゐたが、其時父の使つて居た職工と通ずる樣になつた。それが父母に知れて、遂に公けの夫婦となつた。ところが、其夫が放蕩者で他に情婦を造らへて、其女と何處へか逃げてしまつた。その時彼女はすでに姙娠四ケ月になつてゐた。そこで彼女は自暴自棄になつて、家を出てふたたびK町に來て、ある機業家に入り工女として働く事になつたのは善いが。その家に二三日働てゐるうちに、牛獸的な主人は、彼女の美しいところに目をつけ、姙娠四ケ月の彼女を辱め、月給上夫のある女の、貞操を汚したのである。彼女のみならず工女達は皆牛獸的な主人によつて其肉を辱められたので、遂に二三の工女達と彼女とはゐたまらずして、其家を逃げ出したのである。然し逃げ出したが途方に暮れてゐるところを、救世軍の士官の許に、送り屆けられたのである。救世軍の士官は其夜彼女を木賃宿に泊らせ、その翌朝朝飯を食はせ、また旅費を與へて、A町の實家に歸したのである。今頃は子供を產んで其子供の母となつてゐるであらう。

* * * * *

ある春の暖かな日であつた。救世軍の一士官が或る田舍道を歩いてゐると、見すぼらしい風をした女の何か獨言を云ひながら歩いてゐるのに出遭ふた。そこで、士官は其女に話しかけて見ると、女はニヤ／＼笑つたりまた泣いたりした。士官は暫らく話した後で氣の毒に思ひ、「今晩はお出なさい御飯を上げますから」と云ふて別れた。夕方士官が家に歸ると、其女は家の外に待つてゐた。そこで、其女を家の中に入れて座敷に通し、ミリエル僧正がジヤンバルジヤンと共に食した如く、救世軍士官は其憐れな婦人と共に夕飯を食した。

食後の身上話によれば、其女は土地の者で、名は8年は卅二才、父は大工であるが、今の浮浪的勞働をしてゐるものである。母は其女の幼少の時死んだのである。其女の事を土地の者は「〇〇さん」と呼んでゐる、彼女は小學校を卒へて土地のある機業家に奉公に行つた。月日の過ぎ行くのは早いもので五年の年期は明けた。それから彼女は二三の機業家で働く樣になつた。で、いつも善い物を織るところからよい工賃を取つてゐたのであつた。その得た金で若い女の常である着物を造る、化粧品を買ふ、芝居に行くと云ふ樣に虛榮のために用ひたのである。その結果靑年達は彼女を誘惑したのである。それが原因で彼女は異性に接する事をなんとも思はなくなつた。まるで賣笑婦の樣に墮落したのである。また彼女と關係した男の中で今は立派な機業家になつてゐる者もある。理髮業を營なんで居る者もある。が彼女は彼等牛獸的な靑年のために煩悶して精神病者になつたのである。

なほ彼女が救世軍の士官に語つたところによれば、彼女か狂人になつて汚たない風をして町を歩くやうになつても、また彼女を辱める野獸的な者があつて、其結果大工のTと云ふ靑年の子供を產んだとの事である。子供は生れて直に死んだのである。罪惡の生んだ子供は暗より暗に行つた。彼女は斯樣な物語をする內に泣いたり、笑ふたりした。其夜救世軍の士官は、彼女を入浴させて。家に寢かせた。翌朝彼女は起きると朝飯も食はずに何處かに行つてしまつた。

貞操を汚されて狂人になつた彼女は、今でもなほ、乞食をして夜は宮や堂の廊下に伏し、晝は人の家の軒下に立つて居るであらう。

* * * * *

私はこの貞操を汚された二人の女の事を聞かされた時、嗚呼おそろしい社會であると思はずにはゐられなかつた。婦人の生命である貞操を汚す事を罪惡と思ふてゐないのである。彼等は精神的に其婦人を殺してゐるのである。私は彼等を精神的に罰してやりたい。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清春秋

河合北洲

冬の海

人生は煩悶の海也。一潮高く寄せては富、名譽、權勢、享樂の泡を捧げ、一潮低く落ちては、貧、病、老、死の底に沈む。底の底に人生の眞相を窮むるも煩悶也、泡沫に人生の熱望を沸騰するも亦煩悶也。寄せては返へす喜怒哀樂の小波、浮沈興亡の波瀾に、能く泳ぐものも能く溺れ、能く漕ぐものも能く覆へる。千變萬化の海波に弄せられざるもの何人かある。弄せられざるもの何の法かある。民族の潮流は、滔々たる國家的海峽に驅れて、自他針路の衝突をなす、相擊ち相激するもの、歐洲に大戰亂の渦を湧かし、兵力、財力、器力、智方、能力の力戰は、潛在勢力の發揮を促して、陸離たる電光石火に凄烈慘烈を加ふるもの、遠く日米に黃金の海嘯を寄するに至る。黃金の波に漂ふ海運、貿易、製造、生産の立脚點は、動もすれば投機の風潮に誘はれて、足元を洗はれんとするの危機あり、個人然り、國家も亦然らんとす。險惡なるは冬の海也、不斷なるは人生の冬也。低氣壓の警報屢々心耳を驚かして、不穩の風雲連りに眼前に迫る。歐洲は力戰苦鬪に愈々生々の元氣を鼓舞するも、我同胞は對岸の火災に、阿片の夢を貪らんとすれば也。

空しき貝殼

可憐なるは波打際に立てる兒童也。拾ひし貝殼に水を汲みて、限りなき欲望の海を乾かさんと欲す。海水漫々たり、盡きず、乾かず。即ち勞して功なしと雖も貨貝殼は以て現物交換の要具たりし也。貨幣の字源かくの如く、富を求むるの心理も亦かくの如き乎。貨幣にも艱苦と變遷の歷史は印象せらる、滿干の波に揉まれし貝殼は、鶴嘴と熱火と、鐵槌に煅錬せられし金銀銅貨に

遊廓物語（四）

救世軍婦人救濟係　伊藤富士雄

▲蓋をかぶせて迄も▼

一月號豫告の通り本月號は、情死した娼妓の遺書を掲載說明する筈であつたが、自分の手で自殺を遂げさせた多數の中、最も悲痛な周圍の事情から情死、又は自殺するの破目に陷つた三人の遺書であるから、本誌に掲載するには寸毫の杜撰を赦されない。隨つて僅の紙面では、充分是れが事實を徹底的に述べる事は不可能であるが爲め、遺憾乍ら來月號に讓る事にした。

娼妓の生活が到底筆紙に盡し難い程の、悲慘な種々の事情等に就ては、從來每號、私が直接遭遇した事實有りの儘を忌憚なく之れを指摘掲載して、凡く會員諸君の同情を請ふた次第であつた。

何時頃出來たものかいろは歌留多の中に「聞いて極樂見て地獄」さて其繪には娼妓の盛裝した立姿が書いてあるが、從來此教訓に就ては其時代の學者皆悉く其說を異にして居つたやうであるから、我々淺學者の判

其位地を讓りしも、彼等の飛行性に富めるは則一也。かくて優待の極、所有するに過ぐるも煩悶にして、彼の足迹を印するに及ばざるも亦苦痛也。煩悶と、苦痛と、享樂の混合酒を供する金錢は、弱き人生に強度の魔醉を與ふ。

一杯、人、酒を飲み。二杯、酒、酒を飲み。三杯、酒、人を呑む。飲みて呑るゝは酒也。醉ふて魅せらるゝも金錢也。一根、人、金を儲け。二鈍、金、金を儲け。三運、金、人を儲く。儲くるに難路あり、儲けらるゝに時運あり、時運正に的中したるもの、船に儲けられ、貿易に儲けられ、製造と生産に儲けられし今の成金は、事業界投機界の滿潮を促すと與に、又骨董界花柳界の堤を破る、破る彼等の惰力は、自己の人格と品性を破り、習慣と謹嚴を破り、併せて家庭と前途を誤るに非ざる歟。

富の貝殼は一時の自由と虛榮を買ふに足るべし、以て人生無限の生命と滿足を汲むに足らざる也。欲望の小波は滿すに足るも、襲來る野心の大波は汲盡す可らざれば也。名譽の貝殼然り、權勢の貝殼然り、戀愛と享樂の貝殼も亦然り、空しき貝殼を拾ふに苦心慘憺たるもの、貝殼を抱きて煩悶の海濱に立てるもの、何ぞ空しきものゝうちに實を求め、死せるものゝうちに、生けるものを探らんとするや。

有限より無限に

人生は短し、價値ある人生は長からざるに非ず、物界に限りあるも、靈界には限りなければ也。一夢の貧富、一夢の貴賤、一夢の禍福、覺めざれば一夢より直ちに永眠に入り、覺むれば則一夢より轉じて永生に移る、永生とは短き有限界より、長き無限界に接續し、虛夢的生活より充實的生活に移住する也。接續と移住の關門は夢死の閉門に隣接したるに非ずして、却て燃ゆる生命の中道に接續す、燃ふる生々の今日あらば、則ち直ちに無限界永生の一員たり一日たるべき也

有限の短命を更に短縮するものあり、靈光の戶を閉し、良心の電話を斷ち、肉欲の酒、獸行の夢、人非人の沒義道に血迷ふて、短夜の黑暗より直ちに無限の暗黑に移る、彼等は太き短命を求めて短命を得たるもの、又何をか恨むべき、惟彼

底窮知し得ない處である。併し私の考へ丈では少くとも、それが娼妓夫れ自身に關する事だとしか思はれない。之れ迄何時何れの國でも、娼妓等に就ての狀態を充分見聞し研究したやうな婦人は少ない。今日の樣に男女問題、殊に貞操問題に就て世の智識階級者は大體丈でも意を用いるやうになつて來たけれども、婦人の多くは娼妓を見聞し乍ら、其悲慘なそして暗黑に包まれた內部の事情等を窺ふやうな事は一般に變つて居る人が多い。だから皆我不關焉の態度である。

斯く文明の空氣に觸れて居る人達でも、彼等の生活等を知らうともしないし、又誰も餘り口に出さぬから東北地方の如き比較的未開な地の婦人は、尙更娼妓の文字其物さへ聞いた事がないといふ、さういふ土地を好事として樓主、又は惡周旋屋が行つては、ボタ餅で頰を叩くやうな甘い文句で、婦人又は其家庭の人達を欺いて、そして連れて來るのである。山室大佐が何時の廓淸演說でも此事に關して申される如く「目に一丁字ない婦人を東北地方の、極めて未開な僻地から詐欺的手段で吉原に引張つて來て他出を一步も赦さない。だから彼等娼妓は東北の山の中と、只吉原を知つて居る丈で他に何も見出した事がない云々」

私は茲に聞いて極樂見て地獄の教訓があると思ふ。只それを遠廻しに言つたに過ぎないやうにしか考へられぬ。

茲に其一事實がある。新吉原角町十番地一力樓方に

等の子弟たり、爪牙たるもの、有意無意に半人半獸の王國を開拓して、傍若無人の臭骸を驅すもの所謂文士、政治家、商業家に剝ぐべきの鐵面少からざる也。白く塗りたる所謂敎育家、宗敎家に堀るべきの骸骨少からざる也。彼等にして自己の運命を咀はざらんとせば、先づ贖罪の血清療法を受けんこと也。

有限の肉界より無限の靈界に接續するは、神秘なる新生の初穗を接ぐに在り、神なるロゴスの豐なる生命を注射するに在り、此生命にして智能の光明に照り、情熱の信仰に燃え、意志の實力に充實せば、人の人たり、神の人たるもの、何を煩悶の海上に徒歩するを怪まんや、又何ぞ風雪の猛烈なるに驚くものならんや、更に又暗黑の家庭、社會、國家に神光の溢るゝ水晶宮を、築くに於て何かあらんや。

一切か絶無か

有限界の生命保險は、奮鬪と努力也。有限無限の接續、向上法は曰く一切か絶無かと。

一切とは一切を献ぐるに在り、絶無とは罪根の斷絶に在り、既に一切を献ぐ、一分減も禁物也、三分減、五分減は更に禁物也、既に絶無を誓ふ、妥協も嚴禁也誘惑の微温外交、罪惡との握手接吻は更に絶對禁也。半人半獸の歸化に至ては遂に駱駝の針孔を通過するよりも難きものあるべく。夫れ、獸類の道は全放恣也、人類の德は中庸也、而して神の門限は一切か絶無なれば也。

一切と絶無の根に、新生と聖別の幹は生ず、新生と聖別のうち神彼と與に在り彼神と與に在る也。

廓葬とは何ぞや

大山公は國家に對する勳勞を以て國葬の光榮に浴したるが、公が顯位者としては殆ど絶無に近き一夫一婦の實行者たりしに比して、玆に奇怪なる對象をなす者あり。大阪市選出の某元代議士は此程死去して、生前遊廓に對する勳勞を報ゐんが爲、同地遊廓の廓葬に行ひたりといふ。何等の光榮何等の對象ぞ。大正の代に新に大遊廓建設を見るの地だけありて、變つたともある者哉。醜陋の極。

出稼娼妓の春駒事高橋久子さて、樓主の口車に乘せられ、遂に此の世の生地獄たる彼のドン底に陷つた者である は謂ふ迄もない。而して大抵の娼妓が彼の怖る可き花柳病の爲めに、隨分さ悲痛な思ひを爲す夫れ以上の激しき梅毒に罹つたのである。今迄艶々さして居た黑髮は、根本からアツリ〳〵さ拔けるに至つたので、殆ご絶倒せん許りになつて此事を樓主に告げたけれごも胴慾なる樓主は、種々の口實を設けて頑さして彼を病院にも入院させぬし、休業も許さないのみか、罵を購ふて來て彼の頭に被せそして營業を續行さして居たさいふ。彼が遂に剃刀自殺を遂げるに至るのも無理ならぬ話である。何たる悲慘ぞ。

□曰く集（四）

▲疋田保一氏曰く「南洋には世界各國の醜業婦が居るが、併し彼等は決して自分の何國人たるかを曰はない、佛蘭人であれば希臘人であるさか、獨逸人であれば墺國人であるさか、勝手な事をいふて彼等自身は醜業婦になつてもなほ自分の國家を辱しめまいさする高い愛國心の發露があるが、翻つて日本醜業婦はさいふさ、一見奇怪な風俗をして日本人たる事を示してゐるばかりでなく、其室内には畏くも兩陛下の肖像を揭げ、其下に於て怪しからぬ所業を營むのである。其の無恥不忠非愛國慚愧に堪へない。併し彼等は尊影を揭げて却つて之を以て忠君さ心得て居るのであらう。外人醜業婦の國家觀念さ比較して其の愚劣さ醜陋に泣かされるのである。

短篇 禍

田村俊造

四日を背負つてのそ/\裏口から這入つて來た百姓の佐助は肩に擔いで居た鍬を數十年來踏み固められてきた凸凹の、どす黑い土間に卸した。褐色に乾いた土だらけの兩手を輕く敲き合して鳥渡家の内を覗いて見た。彼の空腹は味噌汁の臭を嗅ぎ分けやうとしたが、いつも今頃は家中どた/\騷いでゐる子供すら見えない。でも彼は最後の秋仕事の芋掘りが今日終つたので胸が輕くなつたやうである。手早く草鞋と股引を脫いで、小川を石でせき止めた水場で第一に鍬の土をよく洗ひ落して片付けてから手から頭、足とごし/\洗つて藁緒の下駄を穿いた。頭を拭きながら佇立つて、暫し此の秋に穫り込んだものを積んだ土間の有樣に見惚れて居た。土間の左側は屋根に届くまで一面に乾稻が積つてゐる、見ても滿腹しさうだ。右側は今日取りこんだ芋が便所の通りを狹くして並んでゐる。どれも皮一杯にふくれ上つてゐる。土曜の日照りで外れたと云つても十俵はあるだらう、腐れの來ない裡に天日で乾かして圍わう、と考へて「でも六月から竹が居ないがんに俺はよく獨りで遣り通いたなあ」と心の滿足が溢れて呟いて微笑んだ。

「あの恩知らず野郞」と不意に唸つた。前に居たら咬み潰す程の一徹な憤怒に驅られたやうに。日に燒けた額にどんよりと安定してゐた眼は異樣に白く光つた。佐助は商賣氣ない呆氣一方の裕福者であつた。しかし剛情で困るといつも妻は口說いた。

埃で白くなつてゐる床板に滿足のまゝ巨人のやうな足跡を殘して大きな味噌樽の何本も並んでゐる物置代用の處を通つて茶の間に來た。釘付ではない床板はがた/\と擂いた

座敷と云ふ部分が八疊敷で、後は六尺四方の藁席が敷かれて居る。その中程に四尺四方の圍爐裡があつて、大きな薪が燻つて黄色い煙が龍卷のやうに昇つてゐる。廣い內土間の向隅に廐がある。毛の穢れた馬が飼槽に首を突込んで齒を石臼のやうにごり/\鳴らしてゐた。廐の臭い匂が光の乏しい、煤を食つた家の中に臭ひ渡つて、數十年の間に壁や柱までに沁みて居るやうだ。圍爐裡に煎んじ藥罐が掛かつてゐる、寢所で人の氣配がする。

佐助が、その戶口に立つた時、中の人逹が一齊に振り向いた眼には人を恐れる容子が讀まれた。驚愕したやうだつた。

「誰だ、定か」彼は薄暗い內をすかして見てさう云つて這つた。若い女——彼の娘の定が枕を高くした寢具の中で、髮を亂して寢て居る。彼の妻と他へ嫁いだ彼の妹が途方に暮れて居る。

「御父親か、誰だと思つて俺ら吃驚した」と、妻は云つて彼の氣色を伺がつた。

「定はどうした」と、彼は枕許の賣藥を見た。病人も苦しいのを抑えてゐた、誰でも答へる者がない。が彼は解つた。

定が下男の竹次とくつついて胚んだので今迄些つとも知らなかつた親逹は周章狼狽で下男に暇を遣り父親は每日每夜「親の顏に泥を塗つた」と云つて娘を責めた。それを怖れて今日も定は虫を病んでも迎ひに行かなかつた。

「虫が病めると云ふすかいに魂消て來たがんだが今夜は大丈夫だ。御前向ふへ行つていらつしやい」と妹が事もなげに云つて、彼の怒るのを防がうとした。が彼も娘の苦しげなのを見てはら/\して居たが

「見ろ、勝手なことをしてその態を。親の顏へまで泥を塗りやがつて。相手も人もあらうに俺らが使つて居た竹の野郞じやねいか」と、親としての威權を落すまいとした。

定は大聲を上げて泣き出した、と母もしく/\初めた。佐助の泪も耐え切れなくなつて眼尻から溢れた。盲目的の愛が單純な彼の心に起つた。

「定、馬鹿め、泣くんじやない。俺らみせしめのために今迄小言を云つたがんで、決して憎い所じやないすかいに。泣くな血病にでもなつたらどうする。子供のことなんて心配しずに安心してゐろ。如何つかのことがあつても俺が御前を庇つてやるぞ」

土地の習慣で男は決して產室に這入らないことになつてゐる。鳥渡でもそんな事があると村中の評判になつて、嬶逹の茶呑話になつて、嘲笑された。

佐助は心を殘して出て、野良衣のまゝ圍爐裡の傍に大胡座を搔いた。苦しい定の呻り聲が耳について、氣を引かされた。眼をしよぼ/\させて、圖體の大きい身體の動かせ方を知らなかつた。只「死んだ子が生れて吳れゝばいゝ」と同じことのみ心に繰り返して居る內に「父無し兒は大抵死んで生れるものだ」と云ふ考が心に固つて來て居た。

* * * * *

佐助は妹に勸められて、子供と一緒に夕餉の膳に向つた。定は拷問されるやうに齒を食ひ縛つて呻り聲が絕えない。母がその傍で泣事のやうな事を云つてゐる。佐助の眼は寢所の戶から離れなかつた。樂しみにしてゐる夕飯も今夜はさつぱり味がない、それでも胃が一杯になるまで五六杯黑い飯を詰め込んだ。

「姉やあは今夜おつかないぞ。姉やが寢てるだんでことは人に默つてゐろ。さうしないと化物に取憑れておつかない目に逢うぞ」彼とは子供を脅かして、妹の家に送つて宿めることにした。

定の呻り聲はだん/\高くなつてきた。「あゝ、あゝ」と時々唸いた。

「醫者を賴まう」と彼の處へ來て云つた妻の顏は土のやうであつた。「あんなに苦しがるのは俺あとても見て居られない」

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

「馬鹿云ふな、大概に醫者まで呼んで來て、恥を晒すなんて俺あ大嫌だ。外聞が惡い」

「子供が出來ってから隠し通せるもんぢやあるまいし……」

「父無し子って大底死んで生れるもんだ。二三時間の苦しみだすかいに我慢させろ。嫁に行く身にや換へられすかいなあ」頑迷の彼は應じなかつた。

妻が立たうさするさ彼は少し不安さうに聴いた。「大丈夫赤子は死んで生れるだらうな」

生きてゐる赤子が生れる——娘の唸を聞きながらさう思ふさ酷く心配になつて來た。鈍い心が苛立つてぢつさして居られなくなつた。

彼は立ち上つて裏口から家續きの畑へ出て自分の籾乾場まで一廻した。ある恐ろしい考へがふさ胸に浮んだ。それは昔から山間によくあるこさで彼は考へた丈でも昏倒しさうであつた。

彼が背戸を開けるさ同時に障子穴に當る風のやうな赤兒の泣聲が微に聞えた。彼の手はぶる〳〵さ顫いた。茶の間に這つて來たのを妹が見て

「男子だ、可愛い男子だ」さ云つた。佐助の顔は固くなつてゐた。

「今枕許で初湯を使はせてゐるすかいに、初孫だ、見てゝらしやい」さ妹が勸めるのに彼は胡座を掻いた。

臺所では赤子の泣聲さ妻さ妹さの笑ひ聲で夜が明けたやうだつた。

「あい、娘」佐助は重く呼んだ。

出て來た妻の顔は伸び〳〵してゐた。

「貴樣あ、赤兒を一體何うしる氣だ」さ佐助に聴かれて

「何うしるつて乳母にでも遣らないかい」

「貴樣あ定のためや外聞を考へて居れい」彼は聲を落して「俺あ一層のこさ殺す積だ」

妻はぎよつさした。

「えッ—さッ飛んでもねえッ」

「……仕方がねえだ」

妻は愈々あつけにさられた。

「馬鹿ばつか云つて、俺あの兒の顔を見たら可愛くなつた」

「娘のためにや換へられないぞ。俺ら定が只々可哀さうで仕方がない」

「御前でも俺でも人の迷惑になるこさを遠慮して來たがじやないか。それが………」

「生てゝこまるやうな赤子を壓し殺すなんていくらもあるぢやれいか」さ佐助はそれの公然の秘密になつてゐる例を四つ五つ造作もなく擧げて」これが可愛い定のために一番いゝさ思ふんだ」

「巡査にでも知れたごうしるい」妻は迷つた。

「知つてゐるのはさき（妹）さ貴樣ばつかりじやれいか。兒も可哀さうだが何にもかも可愛い定のためだ」

吃驚してその座に加はつた妹は

「おさゝ、御前は考へが足らないぜ、それでは子供を畜生のやうに可愛がるて云ふもんだ。赤子が生きて居たつて定の恥になるばかりだ。手前の孫を殺したら人殺しになるぜ」さ云つた。

「馬鹿云ふな。父無し子一人位の命は定がために換へられるらあ。定は嫁に行けば子供なんて困る程出來るぞ」さ、佐助は外を見るべく餘りに固かつた。

「御前は人の火傷の痕に自分の生肉を割いてやるやうなもんだ」さ妹は云つた

彼は「それが可愛い定のために一番いゝこさだ」さ云ひ張つて譲らなかつた。

遂に佐助が云ふ通りに決るさ妻が

「それじや初孫だすかいに御前も顔を一目見てからにしやい」さ云ふさ

「顔を見るさ可愛くなつて手が下されないすかいに疑歎に包んで持つて來い」さ彼は云つた。

妻は孫を抱いた時さう悲しくはなかつたが涙が無性にこぼれた。

「人目が惡いすかいに御父親がこつそり乳母に置いて來るすかいに。いゝなあ」

定は何も知らないで苦しみ疲れて死んだやうになつてゐた。そして微に首肯いて見せた。

妻は、こんなこさで親子の生別になるかさ思ふさ情なくなつた、赤子の顔を突きつけて

「隨分見られないすかいよく見さけ。定」さ云つた。

定は細く眼を明けて見て、眼を固く見開いてゐる小さい顔を憎むやうに微に眉響をめて眼を瞑つた。

佐助は疑歎に包んだ子を受取るさ女共に向つて、妙な笑ひを口許に浮べて

「此の子も可哀さうさなあ、父無し子に生れた御陰で一二時間で娑婆の風さ別れるんだ。俺あ何んだか小氣味が惡くなつて來た。可愛さうだなあ。その代り定が嫁に行つてから生れ變つて來べい。其の時は大事にして遣らあ」さ云つた。

彼がその包を背戸の方に持つて行くさ女共は臺所に逃げこんで口を噤んでぶる〳〵顫いてゐた。

* * * *

三十分さ經たない中に黑い彼の姿は裏口からこつそり抜け出した。右手で兩口を縛つた蓆包を小脇に抱えて、左手で夕方洗つた鍬を擔いでゐた。勿論蓆包の中は子供の屍體である。

畑や田の中を目的なしに足早に縫つて歩いた。そして河を越へて自分の桑畑に出た。彼の胸は怯ろしく動悸して、大丈夫さ思ふ隱蔽すべき場所を見付けるこさが出來なかつたのだつた。

雲に遮ぎられない月は青い光で寂れ切つた晩秋の野を照し出した。佐助は畑の隅を掘り初めた。鍬の先金は燐光のやうに青白く光つた。土さ金のかち合ふ音は死のやうにひつそりさした空氣を何處までも騒がした。彼の本能が脅かされたやうに、時々彼の頭を擡げて、眼をあたりに配つた。

掘り終るさ彼は包の合せ目を擴げて月明で初めて赤子を見た。咽喉を締めて壓し殺した顎の邊が紫色になつてゐた。彼は更に擴げた。赤子のぶす黑い脣に血がにじみ出してゐる。佐助は慌てゝ穴に投げこんで土を掛けた。

それから八日目に小さい屍體は巡査の手で掘り出されて、佐助は殺人犯の嫌疑者さして拘引された。そして懲役五年を受けるこさになつた。

* * * *

これは私の郷里で今だに絶えない習慣の一つの話しである。（完）

天鼓の響き

人生の意義

深川 有馬純雄

其れ社會の不安の源、人心煩悶の本は工藝器械の發明にあらずして寧ろ近世社會組織の根本的缺陥より流迸するものなることを忘れてはならぬ。

生產資料を壟斷する近世の豪族社會は、人權と自由とを標榜して立ち、而も人權は强者の權利にして、その自由競爭の變風なり。昔に帝王伸權、政府萬能主義を打破し、豪族伸權を主張し黃金萬能主義を以つてそれに替へたり。

然しながら豪族社會の統治せる社會は、正義博愛人情と相容れざるのみかやゝもせば、黃金が政治を獨裁(一例公娼制度)黃金が宗教道德を尺度し、黃金が教育の神聖を汚すものなり。大阪飛田遊廓指定地の如く尙他言せば人格を尺度し人間生命を賣買す。在來の奴隸主義に極端なる個人自由主義を加味したる結果、一般平民社會に家族生計の分擔責任といふ奇現象を活現せり。

家族生計分擔責任それ赤裸々なる生存競爭が家庭の裡に演ぜられ資本家族崩壊となり、平民は生活の窮愈々困難に家庭の和樂それが破壊せられ如斯にして社會の罪惡は黑潮の五洲に潮すが如し。

細民が斯くも經濟界の逆境に立ちて、日に生活の困難を感じつゝ小作人は、粒々辛苦するに座食して奢侈放逸、尊を王侯に擬するを敢てして憚らざるは吾人當代の地主社會に多く見る所である。

小資本と小農とは自由競爭を土臺として、土地資本の私有權を以つて構造されたる現代の社會に在つて到底生存の立場なきなり。

近世勞働社會の彼等は土地を有せず生產の資料なし。故に止むなく「勞力の賣却」を以つて生存の舞踏を演ぜざるべからず、彼等は全く獨立の人格を失ひ遂ひに生命なき貨物と同視せらるゝのみ、此れにかゝはらず細民の增加都會の膨脹の理由は、工業の發達に伴ひ比較的生產力の稀薄なる地方人民を吸引するを以てせり。又地方生活が次第に困迫するを以つて地方細民をして都會移住熱に罹らしむるを以つてなりと言ふ。全國地方細民の湧くが如く都會に向つて、移住するとは體裁の言葉にて誘拐の多きを知る。實に恐るべき現象と言はざる可からず。

表面に非常なる「勞力經濟」あるに係らず一方には斯の如く飢渇の呵責に遭ふの民あり、貧民の增加するに至つては誰かその解釋に惑はざらん。近世の貧民、その非常なる勢力を有し立法者を惱し政治家を煩悶せしむる言葉多し。諸君…未婚者及離婚者の增加を促がし、教育の障碍と人命を短縮し、人文の進步を遮害するそは直接間接に社會罪惡の原動力となり。國家禍亂の動機とならざらんや。

然り非常なる富の增殖あつて、傍ら此驚くべき貧民の增加あるは、これ確かに近世社會の呪詛にして又文明の恥辱と稱すべきものなり。

破衣蓬髮飢餓に迫る人、酒池肉林に飽く人面獸身の寄生產社會の勞力に寄生々活の人。

暴戾なる社會組織の缺陥に乘じて、生產社會の掠奪する者可憐なる頭を垂れて社會に哀を乞ふ人。

富豪と乞食、これ實に近世社會の兩極にしてその間に立つて終生粒々辛苦の汗を流すものあり、此れ卽ち平民社會近世の勞力社會にあらずや。斯かる利害衝突せる三者の配合あり、吾人は如何に之を調和せしめ危險を除くべきか。

嗚呼文明の進步か果た文明の退步か。

夫れ勞力の掠奪は社會經濟の本旨にあらず、產業の福祉を占有し生存競爭の衢街に彷徨せしむるは、自然界征服の精神にあらず、發明が與へたる「勞力の經濟」は唯だ少數社會のためにのみあらず。これ一般人類が苦痛を代表する勞働を脫れんがためなり、故に發明の恩澤は社會の共有なり產業の發達は人類協同の結晶なり。

これ敢て余一人のユトピアにあらず夢想にあらず、之苟も盲目的我慾を棄てゝ冷靜なる常識に照らす時は貴族も資本家も、地主も彼の平民社會と同じく首肯すべき實在的理想にあらずや。

敢て此理想人心の奧底に永久の渴仰として燃ゆ。於玆乎現實社會の缺陥に逢着し、發しては不平不滿の聲となり、現狀打破の熱火となり、社會不安の徵候となれり、彼のプルトドンスペンサー一派に依つて主張さるゝ經濟的無政府主義となり、又ベラミーシヨルデ、ロリア等に依て唱導せらるゝ土地國有論となり、單稅論となり、進んではマルクスエンゲルに依つて代表せらるゝ近世社會主義の福音となり、或はマツニーの鋼

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

動さなり、ビスマークの政策さなり、トルストイの宗教さなり、ユーゴー。ゾラ。カーライル。ラスキン等の詩的熱火さなり、虚無黨無政府黨の狂熱さなれり。

而して議會の操縦さなり勞働協會の活動さなり、同盟罷工の煽動さなり、ツラスト禁過策さなれり。如斯にして人心は新天地を喝仰し新時代を追求す。

絶望悲觀するは人文進歩の仇也、悲觀さ奇險さは一步の差のみ吾人は最も健實圓滿なる調和發達を望む。

實驗より得たる利益

横濱　梅翁

先日から心付て居りましたが、一寸さした面白い實驗談て、些少でも世の中の利益になるなら此上なき事であるさ、思つて居りましたから申上ます。何事を所理するにも、私が出會した實驗談を心さすれば、物事を所理する上に付て、得る所が甚だ多からふさ思ふのです。此實驗談に就て考ふれば、習慣より來る弊害さ手慣れぬより來る迷惑さ併有して居るさ云ふ證據を見る事が出來ます。

或時私が自分の郷里より三十里許り隔つた地方に無案内の旅行を致した事があります。始めの程は汽車もあり、俥もありましたけれども、日も暮れかゝつて來て俥から下りて後の俥を尋ねますさ俥はもう行かぬさ斷はられました、目的地までまだ五里もあつて之れからは、山坂斗りであるから三人挽でもなければ、通れぬさ云ふのである。私の懐中はよし、三人が四人でも挽けさ云ふ勇氣がない。でも若い元氣であるから、まご〳〵して此所で泊る氣にもなれない、よしさ俥にあつた荷物を雨掛に作つて、下駄がけて出だしたなる程、險阪が何所までも險阪である三里も行つた時は夜の入時頃である。最早男兒立志出郷關などの聲が引込んで出なくなつた、折々ウン〳〵さ氣合をかけて行つたが、稍上り詰もしたらふさ、思つた頃、身輕に出立た商人風の男が暗い後から、聲をかけて呉れた。之れが一生忘られぬ、私の恩人である若し〳〵見上れば貴方は御武家様であるやうだが、何所まで御出になります？」さ云ふから行く可き目的地を答へた「それではまだ二里もありますが、其雨掛荷物は御武士様のなさる事で、是から二里も、そして御出になつてはたまりません、その荷物を一さからげにして、負て御覽なさい、商人は小さく荷でも負ひます」さ云つて道柄など案内して、サツ〳〵さ行つてしまつた、それから私も馬をひき茶屋に休んで、些少の食物など食ふて、荷物を一さからげにして、負て見たがなる程重量が殆ご半分さ感ずる（武士さ云ふ者はせな莫迦な者であらふさ思つた）下り坂など後から押して貰ふやうな便利であつた、此以來私は如何程小さへ荷でも必ず、二つにしないやうに纏合つて居る、政府でも公娼さ私娼さ雨掛に作つてウン〳〵さ肩に懸て額から汗を流して居るよりは、公娼を廢して一つの私娼丈にしたならば、取り締上甚便利であらうさ思ふ、又娼妓は人道に背く者であるさ、心付て是非さも絶滅させねばならぬさならば、廢業の方法も容易であらふさ思ふ、二兎を追ふ者は、一兎も得る能はずさも云つて居るから先づ公娼を廢して、私娼を片付るのが妙案であるさ思ふ、又習慣さ云ふ者は一寸打破し難いさ思ふけれども、之れを打破すれば、非常の便宜を與へる事が多い、手慣れぬ事がおそろしいさ思つて打捨て置くなら又何時までも迷惑を免かるゝ事は出來ない者であ。

社會さ廓清

秋田　菅原　直藏

一陽來復今や大正六年の春を迎ふ。本會員諸氏幸ひに壯健各業務に勉勵あらんこさを望む。

偖て現代我等青年の耳に響くは、乃ち現代青年は甚だ腐敗墮落したりさいふ嫌な聲也。聲は之れを聲さして耳に止めず、馬耳東風の舞を以て之等凡てに對すれば、何の物議を醸す種さはならず。雖然現代青年が如何に元氣なさ過ぎるさて、斯く迄其有無の存在すらを疑はれて迄も尚默過するを得るの元氣あれば、我等の其聲の益々大なるに添ひ益々其反感の昇騰するを覺えるもの也。

見よ現代の青年を善導す可き紳士淑女の行爲を!!。吾人は決して現代の彼等階級が我等青年の如く、彼等が口に唱ふる所謂墮落腐敗したりさは謂はず、何さなれば我等は未だ墮落其物の本質を徹底して味ひたる事なきを以て、腐敗さは如何なる者なる乎、墮落さは如何なる行爲に出づるを稱するか、其間の區劃すらも弱年なる爲めか、彼等の謂ふに從はざる可からざるの境遇にあるを以て、決して之等に就て議論を上下するの意なし、否如何に爲さんさ欲すれども前述の事情は頓て、長い者には卷れるの譬に據れる多くの事證的結論を我等は既知し居れり。只參考の一樣だにならば吾人は幸ひさ信じて左に其懷念を述べんさす。

先づ最初に於て、現代の青年は墮落せりさ稱する紳士は如何なる純潔なる行爲を爲し居るやに就て甚だ疑問なき能はず、第一酒色の間に生存する彼等の行爲は既に失敗の一端ならずや第二藝妓の嫖客は其八割老年

也といふ。第三娼妓の夫れも最同數を示すといふ。斯くて孰れの方面より探究考慮するも、如斯狀態裡に身を沈淪し居り乍ら、青年の墮落を指摘するは、乃の三尺を忘れて、他人の三寸を哄笑するより尙滑稽沙汰にして、吾人は何等彼等の言に眞摯の理由を認めんと欲すれども認むる能はず試に某日青年會懇話會當時の一青年の聲を聞け。

殊に新年になると貞操販賣店は繁昌する新年會だとか、忘年會とか、皆先輩は貞操販賣店で開く、新年になると當局も敎育家も、警察官にも、宗敎家にも特別に許可するかも知れないが、兎に角警察官の如きは好機逸す可からずと云ふ狀態で、其の行爲は實に見るに忍びないものだ、まさか許可された譯でもあるまいが。

新年のみならず當地の警察官吏は常にもさうだ、人民保護の要職にあり乍ら、我が同胞の貞操を蹂躪する破廉恥極まる、行政機關を弄ぶ警察官の狀態實に非道なるものだ。其れが爲め私娼側に全く買收され取締もせず、私娼奬勵してる、實に無責任極まる、無能な警察官の態度を幾度も目撃した。

身を町の收入役と云ふ重大なる任務を負ひ乍ら醜業婦に沒頭して、公金を消費して町の財政に大打擊を與へて、町民を苦るしめた一事實もある、而して小學敎員の俸給を渡さぬことも現に無つた話では無い、町長に對する敎員連の反感は實に甚大なるものだ、先輩よ、敎員家の感情を害す、敎育家を窮させて、其れで國民敎育は可能なるか。

又小學校長と云ふ、社會の木鐸たるものは部下の女敎員と醜行爲を演じつゝ有ると云ふ風評を全生徒の聞知する所となり、生徒の校長に對する嘲笑實に情けないものだ、是れで敎育が出來るか、敎育家としての資格はあるか、是れは表面に露見したのだが裏面と云つたら、新聞の種は山の程蓄積して居る、不幸にも當地に新聞社は無いから其の者に對しては幸に云はればならぬ其敎員を監督の任にある者共は知つてか知らぬでか、實に間拔けも甚だしい、無責任も甚大なるものだ、其れでも視學官だ、國民敎育者だ、小學敎員優遇だ、義務敎育八年延長だ、當局者も遊ばせて物食せて置くと奇妙な音を出しものだ、當局者の頭の改造に盡力してもらひ度い。

一面に於ては遊蕩兒養成所を奬勵し、警察官をして敎師、兼監督と云ふ任に當て、一面に於ては眞面目なれ、潔白なれ、貞操を自覺せよ、社會道德、國民道德の建設、社會風紀改善の必要、などとお可笑しなことを云ふてる。其れ程、國民を立派に敎育をし度い、日本の將來を案んじるなら、何故貞操販賣所を奬勵し、遊蕩兒養成所を奬勵するか、何にか不合理と云つたつて此の位不合理なことは世界にあるまい。

飛田遊廓反對運動の双璧

林　歌子　　　矢島楫子

活動寫眞の取締に就て

下坂　加藤生

健全なる幼年子女をして其心身共、可惜紫色に腐爛せしむる活動寫眞の弊害を近來世の識者が漸く認むるに至れり、活動寫眞の弊に就ては我國に輸入以來、既に幾多の問題起りたるも何分未だ之れが取締手段等に於て當局者も幼稚なりしを以て如何とも爲し能はざりしが如き憾ありしなり雖然今日此問題に就ては最早社會何れの階級者間に於ても論議せらるゝに至り輿論の趨勢は新聞に雜誌に殆と其弊の大なるを認めざるは無し。故に當局者も今や此方面に專門の取締主任を置き取締方法に就き目今大に研究中なりといふ。寔に喜ぶ可き現象ならずして奈何ぞ。我徒は時機遲れの嘆ありと雖も、兩手を擧げて大に其擧を贊する者也。

雖然當局者が其取締方法に就て充分なる好結果を見せんは必然にして決して遺漏あるを疑はぬも、萬一公私娼取締の如き片手落ちの策を執らんか、忽ち其努力せる良策は却つて彼等當業者の爲めにのみになりて不良少年輩出の防禦とはならざるに至るなきを保し難きを以て、當局は其際充分なる考慮を要する事を信ず、即ち夫れと是れとを比較對照し以て完全の策を講ぜられん事を切望して歇ます。冀くば會員諸氏に於ても折に乘じ時に觸れ當局又は本會の研究材料に提供して利益あるのものあらば留意して之れを助けあらん事を。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

熱血紅涙

□**高井隆一君**（長野）豚生は明けて十九の一青年であるが、曩に貴會の噂を聞きましたので、雜誌「廓清」を拜見しました。何れの頁も痛快なる溜飮一下するやうな社會萬般の方面に向つても、其警鐘の任たらざるはなき感があつたので、入會をしやうと考へて居たが輕々の態度は不道德を醸す虞れがあるからと遂機の熟するを待ちましたが愈々入會する決心です。一旦入會の上はたとひ如何なる事情に遭遇するとも、決して容易に脫會は致しません。會と共に仆れて後歇むの覺悟を有して居ります。

□**愛泉生君**（上伊那）今度の品川遊廓の類燒を機會に、再建に就て反對の氣勢をあげられ度祈居候燒け出されたる人に對しては寔に氣の毒である事は、小生も知つて居候。否同情は切なれど罪に對する天火の怒りは、當然彼等の頭上に落下すべきものに有之、本日迄斯る災厄の無かりが却つて不思議位に候。されば小生は決して普通一般の燒け出された人逹の如き狀態とは幾分其間に於て他人はいざ知らず、小生丈は天の有難きを痛切に感じ申候。然るに吾人が墓敬して止まざる高木正年代議士が再建の運動に盡粹し目今東奔西走中との新聞紙の報道、それが眞なりとせば高木代議士の爲め、寔に惜しき事ならざる可からず候。斯る點に就ては吾人未だ其經驗の淺き者、兎や角申すは恐入る次第と相成譯なれば只管默視するの狀態裡に置かせられ候へ共、萬一我縣よりの代議士にして斯如醜昇紙筆に盡し難き代議士あらば、大に之れを反對するも如何せん見ず知らずの人、國民は正義の士を、議會に送るより他に道なくと思考せられ候。會員諸君は如何に候哉

□**林正善君**（信州）二月上旬組織會を開き役員を撰定し、四月には盛大なる發會式を擧行したく候。尚二三十名の入會者ある見込みに候。入會を進むる爲め雜誌殘部等有之候はゞ御送付被下度、左記三氏は二月號より入會致度希望に候先は通知まで。

編輯の後

□二月號編輯に就き、多くの會員諸君から原稿を送つて下さつた事を深く感謝致します。御好意に添ふやう洩れなく掲載すべく、充分に勗めましたが御存じの通り本誌の材料は、時も餘り勝ちであるやうな次第で、隨つて本誌にも全部掲載出來なかつた事を御詫します來月號より原稿到着次第掲載致しますから、何卒此旨御含み置き願ひます。

□會費の件に就き每號御知らせ申します通り、會員諸君から可成直接振替口座に依つて御送金を願ひたいのです。若し本會から集金郵便依託に依つて、頂戴する場合は本年一月から集金料五錢を付け加へ頂戴する事になつて居りますから半ヶ年分四十錢に五錢を加へ都合四十五錢になる譯で御座います。斯樣な次第で何卒前申した通り直接振替拂込を偏に希望致します。

□每號救世軍大尉伊藤富士雄氏が特に材料を選んで遊廓物語を寄稿して下さつて居らるゝ理由は會員諸君も大抵御推察下さる事でありませうが、彼樣な悲慘な事柄は未だ其他に隨分在る事でありまして、薄命に泣く從事の境遇の[illegible]を[illegible]でも、御聞になつた時は何卒廢業に就て、充分の御援助を幾重にも御願ひします。而して御望みに依つては御申込次第「自由廢業の勸め」といふトラクトを送ますから、それを娼妓等にやつて頂けば如何に文盲の者でも、それさへ讀めば自由廢業とはどんなものかゞ判る事と思ひます。

□本月號は御存じの通り客年末と、年始とで種々に混雜したものですから、雜誌發送も幾分か遲延致しましたが、來月號は原稿も最早充分出來て居りますから、廿五日迄には是非發送完了にする心算で居ります何卒寬恕を乞ふ次第です。

□本會員發起の廓淸演說會開催等の場合東京市附近の町村にあつては別に辯士の旅費等も要しませんから、遠慮なくドシ／＼御申込被下樣併し辯士の名指は御斷り致します。（編輯小僧）

大正六年二月一日納本（每月一回一日發行）
大正六年二月一日發行　一部金七錢

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
（小石川區大塚窪町一番地）

印刷人　京橋區弓町十三番地　久保民生

印刷所　千代田印刷株式會社

發行所　芝區三田四國町二番地　廓淸會本部
電話芝五八五五番
振替東京二七〇七二番

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

香氣芳芬
髪は總てのお姿を美しくする
千代田香油は
凡てのお髪を美しくする
▲日本髪でも束髪でも優美にも意氣にも心のまゝよく結へる
▲丈を長くし毛質を軟かにし常に總々とした豐かなお髪を保つ
千代田ポマード本舗
山岸三之助
東京市日本橋區馬喰町四
電話浪花三七九三
振替東京二〇五〇〇

一部定價金七錢

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY